

令和5年7月定例教育委員会会議録

1. 日 時 令和5年7月27日（木）午後1時30分～午後7時10分
2. 場 所 岸和田市教育センター2階 大研修室
3. 出席者
教育長 大下 達哉 教育長職務代理者 植原 和彦 委 員 谷口 馨
委 員 野口 和江 委 員 和田 郁美
4. 事務局出席者
教育次長兼教育総務部長 藤浪 秀樹／学校教育部長 片山 繁一
生涯学習部長 牟田 親也／総務課長 井上 慎二／学校適正配置推進課長 池内 正彰
学校給食課長 寺埜 朗／学校管理課長 松下 英俊／産業高校学務課長 橋本 純
学校教育課長 松本 秀規／人権教育課長 松本 真里／生涯学習課長 井出 英明
スポーツ振興課長 河内 みどり／郷土文化課長 田中 幸博／図書館長 濱崎 賢治
総務課参事 柿花 真紀子

開会 午後1時30分

前回会議録について承認された。本会議録署名者に植原教育長職務代理者を指名した。
傍聴人17名。

○大下教育長

ただいまから、7月定例教育委員会会議を開催します。

報告に入る前に、非公開の決定ですが、本日の案件のうち、議案第29号は個人を特定している内容が含まれていることから「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項の規定により非公開としたいと思います。よろしいでしょうか。

(教育委員、了承)

では、そのように取扱います。

報告第44号 中学生体験入学の実施について

○大下教育長

報告第44号について、説明をお願いします。

○橋本産業高校学務課長

報告第44号につきましては、中学生体験入学の実施についてです。

産業高校の教育内容、進路状況及び学校生活の紹介と、商業科・情報科・デザインシステム

科の特色ある科目の一部を実習することにより、産業高校に対する理解と関心を深め、進路選択の参考に資することを目的に、中学生体験入学を実施します。

日程は、商業科・情報科は7月25日と26日、デザインシステム科は27日の、合わせて3日間です。内容につきましては、学校・学科案内、体験授業、部活動見学等で、対象は中学2、3年生とその保護者、教職員です。周知方法につきましては、堺市以南の中学校への案内文送付とホームページです。

例年、夏休み中に実施しております中学生体験入学ですが、今年は対象を中学2年生にも拡大したこと、申込方法を中学校単位での申込から、個人でホームページから直接申し込む方式に変更したところです。

別紙は体験入学実施要項です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口委員

既に終了されていますので、参加者人数、できれば市内市外別に教えていただきたいのと、体験内容の詳細を教えてくださいませんか。

○橋本産業高校学務課長

商業科・情報科はセットで183名、デザインシステム科は76名のお申込をいただきました。市内外の集計はとれていませんが概ね半々程度であったと思います。内容は、商業科・情報科はマーケティング、簿記、そしてパソコンを使ったICTの授業を、デザインシステム科は、現役の産業高校の2、3年生にも加わってもらい、タイルコースターの制作を行いました。

○植原教育長職務代理者

申込方法を変えたということですが、それにより申込者が増えたりしたのでしょうか。また、堺市以南以外からの申込はあったでしょうか。

○橋本産業高校学務課長

今回は中学校経由の申込はなくし、インターネット経由のみでの申込受付としました。例年は300人程度の申込でしたので増えてはいないです。堺市以南以外では、大阪市内から数名と兵庫県内から1名の申込をいただきました。

○植原教育長職務代理者

体験入学の目的は、まずは産業高校に対する理解と関心を各進路選択の参考にさせていただくことです。目的に照らし合わせれば、多くの方に来てもらうことが大事であると思います。そのあたりはいかがでしょうか。

○橋本産業高校学務課長

おっしゃるように、できるだけ多くの方に申し込みいただくことがもちろん大事であると思っていますので、今回のこの申込方法でいかも含め、検証していきます。

○植原教育長職務代理者

受験者数が減っているなら、それを補う方向で考えて欲しいです。体験入学も300名いたのに、現在は260名に減っているということは、将来の産高の競争率に影響していくと思います。

○大下教育長

直接申込というのは、産高でどんなことをしているのかを見に行きたいという主体的な行動

は、期待されます。学校からの集団申込については、学校から案内があつてあるいは友達同士で誘い合つて一緒に学校から申し込んでもらうので、それも非常に大事なことですよね。だから、今回はホームページだけに限りましかつても、それがそれでいいのか、並行して学校申込も合わせるのか、そのあたりをしっかりと検証していただきたいと思います。植原教育長職務代理者がおっしゃつたことは非常に大事なことです。残念ながら、産業高校のデザインシステム科も、前回の入試では定員割れを起こしてしまつています。今回の体験入学参加者数も減つたということですつので、これをリカバリーするべく、次はどうするかということも産業高校でしっかりと考えていただくようお願いします。

○和田委員

申込された中学2年生と3年生の割合はどんな感じでしたでしょうか。

○橋本産業高校学務課長

詳細な集計がまだですが、圧倒的に3年生が多いとの認識です。

○大下教育長

また詳細な分析をしていただければと思います。

他にいかがでしょうか。ないようですつので、報告として承りました。

報告第45号 ポカリスエットアイススラリーの寄贈について

○大下教育長

報告第45号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

報告第45号につきましては、ポカリスエットアイススラリーの寄贈についてです。

寄贈品名は、ポカリスエットアイススラリー36箱（各校1箱6袋入り）、換算額は38,880円です。

寄贈目的は、市立小・中学校及び高校での熱中症対策に使用のためです。

寄贈者は、大阪市北区中之島六丁目の大塚製薬株式会社関西第一支店支店長飯間真様で、寄贈年月日は令和5年5月26日です。

寄贈品については、別紙の写真の通りです。岸和田市の公民連携の取組に関する寄贈となっております。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

既に学校で利用されたというような報告はありますか。

○松本学校教育課長

まだ報告は聞いておりません。熱中症事案がなく使わないに越したことはないのですが。

○大下教育長

使い勝手がどうであったか、また報告があれば教えてください。

○和田委員

この商品を初めて見たのですが、凍らせて飲むものなのでしょうか。

○松本学校教育課長

はい、そうです。保健室や職員室で凍らせて保存しておいて使用します。

○大下教育長

当然衛生面に気をつけてですが、寄贈者は、熱中症の場合は、首筋の血管を冷やすのにも使用できるとおっしゃっていました。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 46 号 第 35 回濱田青陵賞受賞者の決定について

○大下教育長

報告第 46 号について、説明をお願いします。

○田中郷土文化課長

報告第 46 号につきましては、第 35 回濱田青陵賞受賞者の決定についてです。

概要ですが、第 35 回濱田青陵賞選考委員会が、令和 5 年 5 月 28 日（日）に、朝日新聞大阪本社にて開催され、受賞者を決定いたしました。

まず、「濱田青陵賞」は、岸和田出身の考古学の先駆者である濱田耕作（号：青陵）博士没後 50 年にあたる 1988 年に、「岸和田市文化賞条例」に基づき、岸和田市と朝日新聞社とが創設し、考古学の分野で業績のあった新進の研究者を選考・表彰するもので、今回で 35 回目を迎えました。

今回の受賞者ですが、九州大学人文科学研究院准教授の辻田淳一郎氏 49 歳です。業績は、古代鏡の分析による古墳時代を中心とした考古学的研究で、銅鏡を出発点としながらも、多様な考古学的成果と隣接諸分野の成果を統合しながら、広い視野と問題意識で古代国家形成史研究を牽引していく豊かな将来性を有している点が評価されました。

周知方法ですが、7 月 25 日に報道提供を行い、昨日の 26 日に朝日新聞の朝刊にて掲載されました。また、市のホームページ、広報きしわだ 8 月号にも掲載いたします。

授賞式等は、9 月 24 日（日）にマドカホールにて開催予定です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口委員

この前には、たくさんの方が参加されて授賞式等で講演を聞かせていただいたと思うのですが、今回も特別制限なしに行われるということですのでよろしいでしょうか。

○田中郷土文化課長

はい。制限なしで開催しまして、オンライン等での発信も引き続き行う予定でございます。

○野口委員

多い時には往復葉書で申し込んだり電話で申し込んだりして、会場も限られていますので、人数を超えるとそのような対応もされていたと思うのですが、そのようなご予定もあるわけですね。

○田中郷土文化課長

申込方法については、現在検討しているところでございます。また、広報にてお知らせをさせていただきます。

○大下教育長

古代鏡の分析による古墳時代ということで気になりますのが、邪馬台国について畿内説派な

のか九州説派なのかですが、この先生はどちらになるのでしょうか。

○田中郷土文化課長

実は、辻田先生の視点は、ヤマト王権からの支配・被支配という属性を鏡から解明をしようとしておりまして、研究領域には邪馬台国論争が入っていないということでした。

○大下教育長

わかりました。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告事項は以上ですが、他に何かございませんか。

○橋本産業高校学務課長

先月の報告第 39 号で市民公開講座の簿記 3 級講座を開催させていただいたという報告をさせていただく中で、講座を受講された方のうち、実際に簿記 3 級の検定試験受験者の合格率はどうであったのかというご質問をいただいております。過去 2 年分の資料がありまして、報告させていただきます。まず去年は、講座を受講された方が 15 名、実際に受験された方が 14 名、合格者は 3 名、合格率が 21%でした。一昨年前は、講座を受講された方が 15 名、実際に受験された方が 13 名、合格者は 6 名、合格率が 46%でした。

○大下教育長

追加の報告を承りました。他に何かございませんでしょうか。

○松本人権教育課長

先月の報告第 42 号で支援学級在籍制度の進路状況のところ、2 点、お答え不十分なところがございましたので、お答えさせていただきます。1 点目ですが、支援学級在籍の生徒が高校の全日制課程に行った中に、途中で頓挫してしまう人がいるという内容を教えてくださいというご質問ですけれども、高等学校に進学した時に、一気に周囲の生徒の人数が増えるので、子ども達の中ではコミュニケーションを苦手とするような場合も多く、友達関係とか、対人関係等についていけない、学習等についていけないなどの理由があるというふう聞いております。もう 1 点ですが、府内の全日制の公立高校で、支援学級在籍の子ども達の受入体制はあるのでしょうかというご質問ですが、調べましたところ、公立高校の中には自分の認知特性に合った学び方を知るなどの通級指導教室を設置する高校があります。また、その他公立の中では、教科によって少人数で展開する授業に取り組み、個々の状況に合わせた支援を行っているというような学校もあるようです。私立の方にはそういった特化したところがあるのかというご質問が重ねてありましたが、そちらにつきましては、私立の方でも福祉系とか美容系など専門的なコースを選択できる高校もあるようです。

○大下教育長

追加の報告を承りました。

では、議案の審議に移ります。

議案第 25 号 令和 6 年度市立幼稚園児の募集について

○大下教育長

議案第 25 号について、説明をお願いします。

○井上総務課長

議案第 25 号につきましては、令和 6 年度市立幼稚園児の募集についてです。

市立幼稚園の募集要項に基づきまして、3 歳児、4 歳児及び 5 歳児の園児を募集します。

まず日程ですが、3 歳児募集要項をご覧ください。願書の配付を 9 月 4 日（月）から、受付は 13 日（水）、14 日（木）で行います。

次に 4、5 歳児の募集要項をご覧ください。4、5 歳児は願書の配付を 9 月 27 日（水）から、受付を 10 月 5 日（木）、6 日（金）で行います。

次に昨年度との変更のある箇所について説明します。

引き続き 4、5 歳児の募集要項をご覧ください。「2 募集園」のところで幼保の再編前期個別計画に基づき、太田幼稚園が今年度末で閉園しますので募集を停止しています。

次に、「7 小規模化への対応」ですが、園児数 10 人未満の園については、令和 3 年度から集団規模を確保し、より良い教育保育の実施を目的に、近隣の園同士で週に複数回の交流をしています。令和 5 年度の募集要項には、在園児 10 人未満で週に複数回の交流、5 人未満で原則毎日交流と定めています。

引き続き交流を行うという方向性に変更はありませんが、今回からは「10 人未満の場合は近隣園と交流」という回数の表現を無くした記載に変更し、園児の発達状況やカリキュラムに応じ園の判断で交流ができるようにしています。

次も方針の変更ではありません。最後の一文「在園児が 5 人未満となる園への入園希望者には、入園相談時に転園勧奨を行う」を今回から要項に加えています。

この内容については、より良い教育を行うためには一定の集団規模の確保が必要であること等を入園前に丁寧に説明し、入園に際し保護者が適切な判断ができるようにしようとするものです。これまでも運用上、保護者への説明を園にお願いしてきましたが、要項に記載することにより保護者への説明がしやすくなるものと考えています。

次に「8 市立幼稚園及び保育所の再編」ですが、令和 4 年 10 月に公表されました、再編個別計画の中期計画のうち、令和 6 年度募集に影響のある、春木幼稚園・大芝幼稚園の再編を記載しています。

これら園児募集の広報は、3 歳児は広報きしわだ 8 月号、4、5 歳児は広報きしわだ 9 月号、市のホームページ、幼稚園と各町会や自治会に協力をいただき、ポスター掲示を行う予定です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

確認ですが、小規模園との他園との交流については、日程を形式的に定めるのではなくて、子ども達の状況とか、あるいは地域との関わり等も含めて、園長の判断に基本的には委ねて展開してもらおうということでしょうか。

○井上総務課長

はい。週に複数回という原則はありますけれども、おっしゃるように園長の判断でその園のカリキュラムに応じて実施していただくというものでございます。

○植原教育長職務代理者

「7 小規模化への対応」で、相談時に転園勧奨を行うということを要項に記入したからではなく、教育的効果など子どもにとってどうなのかということをしつかりと説明して、十二分

に保護者の方に納得していただき、安心して預けられるようお願いしたいと思います。

○井上総務課長

園長会、幼稚園の主任会でも、内容については説明をしています。保護者にもその趣旨を丁寧に説明するようにして参ります。

○大下教育長

他にございませんでしょうか。では、本件については原案の通り承認することといたします。次からの議案については教科用図書の採択についての議案でございます。事務局の職員で、教科書採択に関係のない職員については退出をお願いいたします。

議案第 26 号 岸和田市立中学校における令和 6 年度使用教科用図書の採択について

○大下教育長

議案第 26 号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

議案第 26 号につきましては、岸和田市立中学校における令和 6 年度使用教科用図書の採択についてです。

岸和田市立中学校における令和 6 年度使用教科用図書の使用について、法令に基づき、教育委員会で採択するものです。

別紙 1 をご覧ください。岸和田市内中学校においては、一覧に記載しております教科用図書を令和 3 年度から使用しております。

次に、別紙 2 をご覧ください。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（以下無償措置法と言います）の第 14 条において、「政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。」と定められております。この「政令で定める期間」とは、無償措置法施行令第 15 条に「種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第九条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年とする。」と定められております。

このことから、中学校教科書の採択につきましては、昨年度と同じものを引き続き使用することとしております。ご審議よろしく申し上げます。

○大下教育長

説明が終わりました。今使っている教科書は令和 3 年度から使用をしていて、令和 6 年度が 4 年目にあたるので、引き続き継続して使用するということが法令で決まっているということです。

○谷口委員

今まで使われてみて、現場の先生方から、特段にこの教科書が使いにくいとか問題があるといった意見はございませんでしたか

○松本学校教育課長

現在のところございません。

○大下教育長

法の規定に基づいた判断ということで、岸和田市立中学校における令和 6 年度使用教科用図書を、今年度と同じものを採択するということがよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

○大下教育長

それでは、承認し、採択いたします。

議案第 27 号 岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における令和 6 年度使用教科用図書の採択について

○大下教育長

議案第 27 号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

議案第 27 号につきましては、岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における令和 6 年度使用教科用図書の採択についてです。

本件は、岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）で令和 6 年度に使用する教科用図書について教育委員会で採択するため、産業高等学校における教科用図書選定委員会の答申を提出するものです。採択のご審議をいただくにあたり、産業高等学校の方から選定委員会の報告を説明いたします。

《全日制》

○齋藤産業高校全日制教務部長

それでは、全日制の教科書選定について説明いたします。今年度につきましても、3 年生が次年度、新しいカリキュラムでの教科書を使用するにあたりまして、調査委員の先生方から選定をいただきました。選定理由につきまして、説明をいたします。

まず、【国語】です。論理国語ですが、新課程の導入に伴いまして定番教材、例えば「ミロのヴィーナス」であるとか、最新の話題についても新しい教材も含めてバランスよく選定され、うまくまとめられており、教員だけでなく生徒たち自身が目標を明確に立てて、学習に取り組むことができる、以上の理由から本書を選定しました。

続いて、【地歴・公民】ですが、今年度は歴史総合という科目になります。私達の歴史、日本から世界へというところで、どちらも新学習指導要領に沿った内容となって、授業展開に役立つ、使いやすい図やイラスト等をわかりやすく提示している、それから見開きで見やすい構成となっている、以上の理由から本書を選定しました。

続いて、【地理講座】です。地歴・公民ですが、今年度は歴史・総合という科目になります。私達の歴史、日本から世界でというところで、どちらも新学習指導要領に沿った内容となって、授業展開に役立つ、使いやすい図やイラスト等をわかりやすく提示している、それから見開きで見やすい構成となっている、以上の理由から本書を選定しました。

続いて、【理科】です。生物基礎ですが、新学習指導要領に沿った内容である、それから何より生徒が主体的に探求できるように、様々な工夫がなされている、いきいきとした写真や図などがダイナミックに紙面に出てきている、生徒の興味を引く、また、大学入試等にも対応した内容となっている、以上の理由から本書を選定しました。物理基礎につきましては、中学校との繋がりを大事にしながら、既習事項の確認が容易にできる、その上で、実験の配置等が適切に行われており、生徒自ら課題を見出して、探求的に読めるようになっている、以上の理由から本書を選定しました。

続いて、【芸術】です。美術 1 については、既にデザイン科の 1 年生の方で、2 年前に採択

をされているものです。こちらが商業科・情報科の選択として、3年生で次年度に導入されることとなります。続いて音楽ですが、商業科・情報科の3年生が選択で実施する内容となります。カラーのページも多く読みやすいこと、それから鑑賞・歌唱・器楽についての内容も非常に充実しており、音楽の歴史、時代背景や、イメージなどについても、本校生徒に理解しやすくまとめられている、以上の理由から本書を選定しました。

続いて、【外国語】です。論理表現Ⅱという科目ですが、論理表現Ⅰから引き続きで文法学習、それから具体的な場面を想定しても活用できる構成が、わかりやすくまとめられている、身近な話題を自らの問題としてとらえ、そしてそこから論理的な発信能力を高めることが期待できるという内容になっている、以上の理由から本書を選定しました。

専門科目の方に参ります。【工業】です。工業環境技術ですが、こちらにつきましては、従前環境工学基礎という科目が、今回の学習指導要領の改定で、工業環境基礎と名称が変更されたものとなっております。内容としましては環境工学基礎を忠実に引き継いだものとなっておりますけれども、その中で、現在の学習指導要領に対応すべく、探求の要素、それから生徒主体となって考える問題等に特化していつている、以上のことから本書を選定しました。

最後に商業科です。まず、【マーケティング】です。こちらは、学びの組立て方が理解しやすい順序で構成されており、本校につきましては、このマーケティングで、生徒達の力をしっかりつけさせたいという部分でして、実際に販売されている商品、あるいは企業が行っている戦略などの事例が多く掲載され、実社会に目を向けやすいというところ、以上の理由から本書を選定しました。

次に、【ビジネスコミュニケーション】です。こちらについては、商業の見方・考え方を働かせながら、ビジネスにおけるコミュニケーションについて実践的・体験的な学習を行うことに最も適した内容となっている、イラストを多用しているため見やすい、以上の理由から本書を選定しました。

次に、【観光ビジネス】です。本校では地元企業と協力して、新しい生徒達の取組を授業に取り入れております。その科目の一端を担う観光ビジネスについて、実践的に理解を深めるために最も適した内容となっている、それから、様々な地域の観光振興策や観光マーケティングに関する事例が多く取り入れられている、地域経済分析システムである RESAS を用いた地域の学習などがしやすく、また取り入れやすくなっている、以上の理由から本書を選定しました。

次に、【財務会計Ⅱ】です。これは、従前からある財務会計Ⅰからの続きになりますので、財務会計Ⅰから学びやすい状態でスライドして、引き続き学習ができる、生徒達がわかりよい資料や要点を丁寧にまとめている、練習問題も多く記載されていますので、生徒が主体的に取り組むことができる、以上の理由から本書を選定しました。

最後に、【ネットワーク活用】です。こちらも次年度より本校で新たに開講する教科になります。今や情報というのは非常に多岐にわたるところになるのですけれども、こちらのテキストにおきましては、情報通信技術、それから静止画・動画等の編集、ウェブデザイン、そういったものを扱うにあたってのモラル、それから最新のセキュリティ事情や電子商取引に関するビジネスへの学習分野、こういったものを包括的に網羅しているため生徒達も学びよい、また章末問題につきましては、生徒の思考・知識の定着と主体的な学習が期待できる、以上のことから本書を選定しました。ご審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○大下教育長

まずは、全日制の教科書について説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口委員

ほとんどが新学習指導要領に沿った内容構成ということで選定されているのですが、専門教科の商業、マーケティング、ビジネスコミュニケーション、観光ビジネス、これについては今までであった教科ですが、今回教科書を変えるということなのでしょう。

○齋藤産業高校全日制教務部長

そうではなくて、カリキュラムを新しく編成し直しております。新しい教育課程の中で取り入れた新科目の教科書選定ということになります。特に、観光ビジネスですとか、ビジネスコミュニケーションといったことにつきましては、今までに本校ではやったことがない科目になりますので、新しく先生方でしっかり取り組んでいこうとしているところでございます。

○大下教育長

産業高校は専門高校で、今まで就職に結びつきやすい学校であったのですが、一方で最近大学への進学実績も非常にあげているということで、大学へ進んだ時の一般教科としての内容が、大学へ行った時に困るようなことにならないだろうか、その点からの内容の審査はされましたでしょうか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

はい。おっしゃるように、本校では、最近3分の1が大学等へ進学ということになっておりますので、進学のこともしっかり頭に入れた上で選定をしています。先程少しお話をさせていただきましたが、理科の科目生物基礎や物理基礎についても、新しい大学の試験等にもしっかり対応したものとなってございます。また、国語や地歴も、過去の教材と最新のものをきちんと網羅しているものを選ばせていただいて、その上で、専門高校で進学にもきちんと対応できるようにと選定しています。

○大下教育長

精選論理国語で、今までの定番教材に加えて比較的新しい教材ということですが、例えば提示していただくとしたらどんなところでしょうか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

目次の方にも、新しい言葉自体がたくさん出てきているかと思えます。最近のIT関連の言葉も取り入れられた題目が出ているのではないかと思います。教科の先生からはそういった新しい話題についてもしっかり取り組んでいるという話をお聞きしています。

○大下教育長

例えば情報社会に関しての内容であったり、生命科学のところであったりということでしょうか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

はい、そうです。

○植原教育長職務代理者

外国語については、論理表現は開隆堂で4技能5領域の育成を目指すとありますが、アプローチⅡは新規で何年生で使う教科書でということですか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

論理表現はⅠ・Ⅱともにアプローチを使っており、新2年生は今使っているⅠを継続して次年度も使用します。今回お持ちしていますⅡは、次年度2年生が使うものになります。

○植原教育長職務代理者

昨年まで使っていた英語表現はどうなりますか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

英語表現は前のカリキュラムになりますので、今回は論理表現という科目となり、アプローチで学ぶ形になります。

○植原教育長職務代理者

その辺の一貫性は取れますか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

科目の方も違いますので大丈夫です。

○大下教育長

産業高校では、学習内容の向上を図るために、選択制を導入して来年度から本格展開がされるわけですが、特に教科書採択において、そういう観点から重視した点はどの教科書に表れているでしょうか。

○齋藤産業高校全日制教務部長

今回ですと、特にビジネスコミュニケーションや観光ビジネスといったところになってくるかと思います。本校では商品開発クラブを中心にして、地域の企業様と協力した活動を展開して参りました。それを、教科に落とし込むにあたって、このビジネスコミュニケーションや観光ビジネスといった教科に取り入れることで、今まで商品開発クラブでやってきた活動を、全生徒に授業で展開していこうと力を入れています。

○大下教育長

それでは、次に、定時制の教科書について説明をお願いします。

《定時制》

○杉本産業高校定時制教務主任

定時制の教科書選定について説明いたします。定時制の方も、今回お持ちしております教科書が、すべて新学習指導要領の適用3年目の学年が来年度始まるということで、それを受けての採択ということでお持ちしております。冊数で言いますと合計で10冊になります。選定理由につきまして、説明をいたします。

まず、【国語】です。大修館の新編文学国語です。最初に『文学作品の読み方』を具体的に解説している部分があり、生徒が文学を楽しみながら深く味わえる配慮がなされている、また、先程ご指摘がありましたが、単元の目標が明確に書かれており、生徒が今から何を身につけるのかというものを、資質能力を意識しながら学ぶことができるという内容となっている、扱っている作品も上代から現在までの多様な文章が載っており、興味・関心を持たせられる、以上のことから本書を選定しました。

次に、【地歴】です。帝国書院の高校生の地域総合という教科書です。こちらは写真やイラストが大変豊富であり、生徒が興味関心を持ちやすい構成になっている、また各テーマの冒頭に、問題に対する問いかけがあり、授業をどのような視点で受けるのか、その授業で考えたい

事柄などが具体的に示されているということで、これから学ぶことを生徒がイメージしやすい構成になっている、そしてテーマが見開き2頁で完結しており、復習の際も、どこを見れば良いか分かりやすいという構成になっている、また地図やグラフの読み取りを学ぶスキルという項目があり、資料を読み取る問題に取り組むための基本的な視点や考え方が身につけられる、以上のことから本書を選定しました。次に関連します地図です。帝国書院の新詳高等地図です。こちらは各地域の地図頁の後に、その該当地域における農業であるとか、気候などの特色を理解する頁が設定されており、教科書で学んだ内容を地図上でも確認ができる、そして、発展としてその地域をまた地図上でも学ぶといった構成になっている、また地形を学習する頁では、イラストと写真、そして実際に地図などが並立して配置されているので、色々なものをデータとして読み取りながら学習することができ、確認しやすい構成である、以上のことから本書を選定しました。

続いて、【公民】です。第一学習社の高等学校政治・経済という教科書です。こちらの教科書は、節の導入部において、その前段階で公共という科目があるのですがその公共までの学習を、振り返るパートが設けられており、生徒は、既に習っている公共までの学習との繋がりや連携を意識して、政治経済という分野を学ぶことができる、時事的な題材や政策のあり方などを巡る対立点を示した「FILE」「TOPIC」「論点」といったコラムが随所に掲載をされており、社会的な事象についても、より深く学習することができるようになっている、また各節の最後には「諸課題へのアプローチ」という項目が設けられており、学習内容について思考表現を段階的に行うことができるようになっている、以上のことから本書を選定しました。

続いて、【理科】です。数研出版の新編化学基礎です。こちらは化学基礎の内容が他教科の学習内容や日常生活と関連していることを紹介しており、学習の動機付けとなるような工夫がなされている、また各章の初めには、中学校での学習内容が復習確認できるよう、要点整理の部分が設定されており、スムーズに学習を始められる、また本文は簡潔で図や表なども充実をしていることなどから基礎基本が学びやすい、以上のことから本書を選定しました。

続いて、【外国語】です。三省堂のビスタイングリッシュコミュニケーションⅡです。英語コミュニケーションⅡという科目の教科書になります。こちらは言語や文化、自然、歴史、科学技術、物語など、生徒が身近なものである題材にして取り上げるということで、興味関心を持ちやすい内容となっている、各単元のそれぞれのセクションでは解説が丁寧に入っており、本文の内容理解が深められるようになっている、多様な言語活動のパートもあり、4技能5領域を結び付けた統合的学習ができる、デジタルコンテンツは最近の教科書では充実しておりまして、本書にも家庭でも生徒が自身の端末などで学習ができるような素材も含まれている、以上のことから本書を選定しました。

続いて、【芸術】です。光村図書の書Ⅰです。こちらの教科書は、高精細な図版が見開きや複数頁にわたって大きく掲載をされており、生徒の芸術的感性を高めることができると考える、「心に響く言葉」「好きな言葉」などを取り扱うことで、書を身近なものとして感じられる工夫もされている、じっくりと鑑賞したり、臨書を繰り返しながら、表現や構成美について考え理解を深められる、以上のことから本書を選定しました。

続きまして、商業科の教科書です。まず、【観光ビジネス】です。実教出版の観光ビジネスです。こちらは本文と事例・コラム・図解など、様々な要素の組み合わせで展開されており、

理論から実務まで幅広く対応でき、観光ビジネスを適切に展開する能力育成に最適である、頁単位で文章と図・写真・事例などが組み合わせとなっているので、生徒にとってわかりやすく興味を持って学習ができる、情報提供ができるという形になっている、観光ビジネスに実際に取り組む人へのインタビューなども数ヶ所入っており、意欲を促す工夫もされている、以上のことから本書を選定しました。

次に、【グローバル経済】です。実教出版のグローバル経済です。こちらは経済のグローバル化に関する概論的な内容を冒頭始めの方に扱い、その後で関連する経済理論を扱う展開になっており、学びやすい構成となっている、図表や、写真囲み記事などが多く入っており、とすれば難解な単語表現が多い分野にはなるのですが、まず生徒がイメージを持つ、そのイメージから理解に繋がるといった構成になっている、以上のことから本書を選定しました。

最後に、【ビジネス法規】です。東京法令出版のビジネス法規です。ビジネスに必要な法規に関する基礎的知識の習得のために、各章において、具体的なビジネスの場面に応じた法律的な説明が展開されている、各単元の冒頭に学習内容に関わる実際の事例が対応するイラストとともに設けられており、今から学ぶ内容を生徒が具体的にイメージを持って学習しやすい構成になっている、見開き一面でその内容の解説が完結しているという構成も生徒へのわかりやすさに繋がる、以上のことから本書を選定しました。ご審議のほど、どうぞよろしく願いいたします。

○大下教育長

定時制の教科書について説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○谷口委員

観光ビジネスに関しまして、新しい分野ということもあってか、全日制と同じ教科書を選択されているわけですが、そうすると、指導の時に、全日制と定時制の先生が相談しながらどうやっていったらいいかということも想定されますが、先程の商品開発クラブの活動などはテレビで紹介されたりしたこともあり、そういったのも楽しみだと思いますが、その中に一緒に定時制の子ども達も入っていけるとか、そういうねらいはあるのでしょうか。

○杉本産業高校定時制教務主任

はい。正直なところを申し上げますと、全日制とはやはり学習時間の時間帯の違いがございますので、そういった同じような活動というのは、現時点では想定はできていないところです。ただ、定時制生徒は少数ではありますが、岸和田市内在住の生徒がまだ半数以上おりますので、自身が住む町をいかに活性化させるかという視点の教育というのを、新たに定時制でも始めたいというところで、この科目の導入に至りましたので、今後将来的には何か連携ができればいいと思いますが、まずは始めてみてというところかと思っています。

○谷口委員

期待しております。是非よろしく申し上げます。

○植原教育長職務代理者

同じく観光ビジネスですが、この科目の主旨は、実践的なこと、体験的なこと、子ども達に商業的な見方を育てるという大変いい内容であると思いますが、色々なコラムやら経験やインタビューが載っているのは素晴らしいと思いますが、子ども達が、実際それをもとにして

体験的な活動を想定できるのでしょうか。

○杉本産業高校定時制教務主任

はい。定時制の方として今考えているビジョンといいますのは、まずは知識として学習として観光に関することを学ぶということです。その上で、やはりどうしても時間帯の問題とかもあり、生徒は少数ということもありますので、具体的に実際の企業さんとの何か連携であるとかいうふうなところというのは、正直かなり工夫しないと難しいとは思っているところです。それに代わると思いますか、この科目は定時制では新2年生で学習をしますので、2年生で一旦基礎的なことを知識として座学学習した後、3年生で課題研究という、フレキシブルに色々なことをできる科目がありますので、その中で、例えば観光の旅行会社を想定して、グループ旅行案を考えてみようとか、そういったことを模擬的に授業の中で取り扱えるところまで何とか指導できたら、現時点での定時制でできる最大限に近づく努力はできるかなと考えているところです。正直なところ本当に実際に生きたものにしていくというのは、定時制の生徒の環境を考えますと、ちょっとなかなかスムーズにいかないところもあるかなと思っています。

○植原教育長職務代理者

全日制であれば、昼間にインタビューへ行ったりと、授業の中で総合的な学習みたいな感じができるけれども、定時制というのがなかなかその辺が難しいので、商業的な見方を机上の理論で覚えていくことになってしまうと危惧していて、また事例もいい内容ですが1年間で消化するには量が多く大変だと思ったのですが、産業高校としては、次の年も含めた上で活用を考え、2年生ではこの分野の基礎基本を徹底し、3年生の別のところでこれを実践的にやって商業的な見方を子ども達に教え卒業させるという方向で考えているということですね。わかりました。有難うございます。

○大下教育長

私からは、感想的なことで申し訳ないのですが、政治経済を見せていただいて、基礎的な内容がしっかり書かれているのと同時に、感心しましたのは、論点のところでアップツーデートの話題等を取り上げ、意見が二分するようなものを積極的に選ばれていると思いますが、一方の意見に偏るということではなくて、両方の意見があるということを提示しておられるということで、生徒がこれを受けて、自分でどう判断するのかということを考えたり、友達と意見を闘わせ合うということができ、非常にいい教科書であるなという感想を持ちました。

○野口委員

確認になりますが、観光ビジネスの教科書を2年生で学習され、それを具体的に3年生で生かすというのは、このカリキュラムでいうとどの授業の中でということになるのでしょうか。

○杉本産業高校定時制教務主任

はい。カリキュラム表をもとにお話をさせていただきます。観光ビジネスは、次年度から始まる科目になります。定時制では、2年生から学ばせて3年生で仕上げというイメージで、本来であれば2年生、今の2年生が今年やり始められたら一番よかったのですが、教科書の発行が1年遅れるという状況があり、次の学年からスタートということになっております。2年生で、選択のうちの一部として、観光分野に興味ある生徒が観光のコースを選ぶ形をまずとります。その中で、1年間かけてまず教科書の内容を勉強しまして、そのあと翌年の「課題研究」という授業が3学年の縦列のところにあるのですけれども、課題研究という授業の中で、

それぞれが興味に合わせて選んだ分野の総仕上げをするという位置付けの科目において、先程申し上げたような実践のシミュレーションをしたりとかを計画しているというところとなっております。この課題研究というのは、それまでの複数設定している、定時制は系列のことをレールと呼んでいます。それを選択してきた内容を、最後3年目でまとめるという科目ですので、科目名は全員一緒なのですが、学ぶ内容は3種類4種類に分かれるという形になることを想定しています。

○植原教育長職務代理者

全体的な話としまして、学習指導要領が主体的・対話的で深い学びということで、全部それに則ってきちっとテーマを与え質問をしており、子ども達が、自ら考え、それをどう活用していかうかという、気づきを得て進めていくような新しい分野に関する教科書を選択していると思います。

○大下教育長

岸和田市立産業高等学校（全日制・定時制）における令和6年度使用教科用図書について、原案のとおり採択するということがよろしいでしょうか。

（教育委員 異議なし）

○大下教育長

それでは、承認し、採択いたします。

議案第28号 岸和田市立小学校における令和6年度使用教科用図書の採択について

○大下教育長

議案第28号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

議案第28号につきましては、岸和田市立小学校における令和6年度使用教科用図書の採択についてです。

岸和田市立小学校の教科用図書の使用について、教育委員会で採択するため、教科用図書選定委員会の答申を提出するものです。

この度、学習指導要領の趣旨を踏まえ、本市児童の学習に最も適した教科用図書の採択に向け、慎重かつ丁寧に専門的な観点から調査・研究を行い、審議した結果として、教科用図書選定委員会より答申をいただきました。

答申を提出するにあたり調査研究を行ってまいりました経過についてですが、5月18日に第1回、第2回の選定委員会と調査員総会を開催しました。選定方針や調査研究の方法、日程等を確認し、調査員による調査研究を開始しました。5月25日からは教科書見本の学校回覧を行い、各小学校と小学校教育研究会における調査研究が始まりました。7月7日には、各調査研究結果が事務局に提出され、7月21日に第3回、24日に第4回の選定委員会を開催し、調査員による調査研究報告と選定委員による答申のための協議を行いました。これらの過程を経て今回の答申をいただいております。

審議では、全ての教科書発行者において検討し、結果的に全者とも推薦いただいておりますが、各者の特長をもとにメリハリある協議を通して特に岸和田市の子どもたちの学習に適しているものについてのご意見も出ております。

このあと、種目ごとに1者の採択をいただくこととなります。

ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○大下教育長

それでは、教科毎にそれぞれ議論を進めてまいりたいと思います。

まずは、国語の審議に入ります。説明をお願いします。

○村上学校教育課指導主事

国語は、東京書籍、教育出版、光村図書、以上の3者でございます。3者とも教材等もバランスよく配置されておりました。子ども達が興味の沸く教材が使われているという調査員からの話も出ております。特に学び方という点では各者の特徴がそれぞれ出ているという調査結果が出ております。東京書籍については、学習の導入部分で掴む段階の内容が充実しております、見開きの導入の紙面になっておりました。その単元で子ども達が自らの課題を明確にして、主体的に学びに取り組めるような工夫がなされているという調査員の報告がございました。続いて教育出版におきましては、てびきにて学習のめあてと振り返りがしっかり対応しており、学習の大きな流れを子ども達が掴み、そしてめあてのもとにどのような言語活動を通じて学ぶのかということが明示されておりました。4つのステップの学習内容、そしてその子ども達の学習を支える様々なツールや、例も豊富に挙げられており、子ども達が学習を進めやすいのではないかと話が出ておりました。続いて光村図書におきましては、各領域の単元において、それぞれの教材、視点による3つの観点での振り返りが述べられておりました。子ども達がその教材で何を学んで、そして、どんなことが身についたのか、そして学んだ言葉の力を汎用的にしたり、他教科や日常生活に活用するというような視点も示されておりました。今回の教科用図書の改定にあたって、それぞれ3者とも言葉の力ということで、子ども達が、どのように言葉を獲得し、そして獲得するだけではなく、それをどのように日常の中で使いこなせるようになるのか、生活で使えるのかなど、語感を磨いたり、そして語彙の質を高めるというような視点で構成をされておりました。また、読書活動との関連につきましても、3者とも関連図書や絵本を読む楽しさ、そして読んだ後の感想をクラスメートと友人と分かち合うというような活動などございました。また1人1台端末の活用に関しましては、それぞれ3者とも二次元コードを豊富に取り入れて、子ども達が授業中もそして家庭学習でも生かせるような仕組みになっておりました。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

1人1台の端末を持っているわけですので、そのデジタル機器の使い方やQRコードがどれだけあるかとかいうようなことに関しては、調査員の方がどのように言っておられるでしょうか。特にどの者が多いとか、優れているあるいは使い方の指導があるというようなことについて、意見は出ませんでしたか。

○村上学校教育課指導主事

ICT機器の取扱いというところでページ数調査も行っております。二次元コードの取扱いにつきましても、東京書籍、教育出版、光村図書、それぞれあったのですが、その中でも数がより多かったのは、東京書籍だという調査員からの報告でございました。

○野口委員

岸和田の子ども達には豊かな表現力をじっくりと身につけて、自分の思いを表現できるようになって欲しいと思いますが、そのために、基礎となるのは語彙力や、基本的な文法理解に即した表現であると思います。そのような基本的な部分を子ども達に丁寧に指導できそうな教科書の特徴がもしありましたら教えてください。それともう1点、低学年の教科書を見せてもらいましたが、「スイミー」、「お手紙」の取扱いが各者違っていています。それについて、調査員さんの方でどのような見解を持たれたのか、もしわかれば教えてください。

○村上学校教育課指導主事

まず、言葉の語彙についての取扱いですが、先程も申しあげましたように今回の教科書で、3者とも言葉の扱い方、身に着け方、それぞれかなり多い頁数で構成をされておりました。そして文法、言葉の語順であるとか、そういうところについてのご質問ですが、それぞれ子ども達が主語述語の関係であるとか、修飾被修飾の関係であるとか、「てにをは」であるとか、そういうものを間違いなく身に付けられるよう、どの各者も取り扱っていました。中でも、東京書籍については、子ども達のつまずきをいかに防ぐかとそういう視点によって構成されていると調査員の話がありました。そして、読み物教材について、「スイミー」と「お手紙」が1年生に入っているのか、2年生に入っているのかとその違いについてですが、どちらもすごく読みごたえがあり、子ども達が読んでいて楽しくなるような物語です。これについては、1年生だからちょっと早いのではないかと、2年生だから遅いのではないかと、というような調査員の意見は特段なかったのですが、指導者からしっかりと音読し、登場人物の様子などを丁寧に指導することがより大事ではないかという意見がございました。

○大下教育長

子ども達が言葉を習得する上で、詰まる音、促音とか伸ばす音、長音というのをしっかりと使い分けるといことが非常に重要だと思います。この部分で各者工夫はございますでしょうか。

○村上学校教育課指導主事

いずれも1年生の教科書の「ひらがなの習得」の単元において、各者とも取扱い、しっかりとした頁数を用いて掲載されておりました。中でも、1年生の特殊音節に関わる学習では、特別支援教育の知見から生まれた「ミム」という指導法を東京書籍が取り扱っておりました。この「ミム」という指導法は、音と文字の関係を体感的に子ども達がとらえていくというもので、例えば「ねこ」の時は、手を2回たたきます「ね・こ」。子ども達が混乱するのが、「ねこ」と「ねっこ」この違いなのですが、「ねっこ」の場合は「ね・っ・こ」と促音については手を結ぶという形で行う指導で、耳とそしてこの手の感覚を体感的に身につけていくというものです。これについては、QRコードで動画も紹介されており、子ども達が繰り返し、家庭で見たり、学校で友達と一緒に取り組んだり、効果的であるという調査結果が出ておりました。

○和田委員

3者ともすごく魅力的な本の紹介が載っていたり、光村では、季節のことば、春夏秋冬が載っていたり、光村と東京書籍では点字の掲示もありました。教出も上下に分かれていて持つて歩くには軽いかと思います。今も東京書籍を子ども達が使わせてもらっているのですが、表紙のデザインも学年によって大きく変わっているなという印象を受けました。国語のノート

の作り方の頁が増えているなど、いつでも見える作りになっているのがいいなと思いました。何よりも、今の中学2年生から一番下の小学校2年生まで同じ教科書で音読で「スイミー」や「だいじょうぶ だいじょうぶ」などを聞いてきましたので、親しみが一番あるのが東京書籍かなと思いました。

○谷口委員

東書とか光村の教科書は、題材教材が非常に面白く、こういう答えがあるなという感じがあり、まず読み込んでしまったのですけれど、岸和田の子ども達の国語力を考えた時に、子ども達にとって難解ではないかというような意見は出ていませんでしたか。

○村上学校教育課指導主事

教科書の中に掲載されています文学的文章、そして説明的文章については、3者とも、数自体では大差はなかったという調査結果になっています。ご質問いただきましたように、文章量の多さには差が見られます。そして3者とも読み物教材には非常に力を入れており、読み物を大事にしているという視点からは、光村図書の文章量が少し多い印象があるということを調査員は申し添えておりました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

いずれの教科書も非常に工夫をされて、内容の深いものであると思います。ただ今議論を聞いておりますと、文法理解においては、子どものつまづきを防ぐ工夫がされているということ、私が質問させていただいた音と言葉の関係性、それがミムですかね、新しい手法が出ているということ、それから音読についても、最も親しみやすい題材が採用されているのではないかと、さらには、文章の読みこなし、そういう求められる力において、ちょっと文章量の多寡に違いがあるということで、今までの議論を聞く中では、東京書籍に一番優位性があるのではないかという印象を持ちました。

国語については、東京書籍ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、国語は東京書籍ということで採択したいと思います。

次は、書写の審議に入ります。説明をお願いします。

○関根人権教育課指導主事

書写は、東京書籍、教育出版、光村図書、以上3者でございます。まず、東京書籍についてですが、1点目は学び方といったところに力点が置かれているということ、ポイントをコンパクトにまとめているという点、見本の見やすさ、わかりやすさ等でございます。2点目は、児童自身が考える場面や話し合う活動場면을重視しているという点でございます。教育出版につきましては、同じく2点でございます。1点目は、めあてに沿った振り返りができるような工夫がある、何々を意識することができましたかというような振り返りが設定されております。2点目は、学習の目的意識を高める工夫がある、という点でございます。教科書の見開きの頁に、なぜ書写を学習するのかといったことを漫画で掲載して、わかりやすく説明している部分もございます。光村図書に関しましては、同じく2点です。1点目は、個別最適な学びに繋げやすい工夫があるという点です。右利き用左利き用のQRコードを掲載して、何度も確認をすることができるような工夫が見られます。2点目は、他教科や生活との繋がりを重視しているとい

う点でございます。6年生に関しましては、書写ブックという別冊といたしますか、綴じ込みの冊子のようなものを付属しております、1年生から6年生までの学習が他の教科や生活のどういった場面に活かされるのかということがわかりやすい工夫がされております。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

社会人になっても鉛筆の持ち方が正しくない方も多く、それが故に、字が乱れたりあるいはすぐ書いていても疲れてしまうということで、なかなか長文を書けないということも見られるのですが、多分1年生だと思えますけれど、持ち方に関して各者の特色があれば教えていただきたいと思えます。

○関根人権教育課指導主事

各者とも鉛筆の持ち方をわかりやすく、1年生の児童に説明する工夫がなされております。中でも、東京書籍の書きやすい持ち方といった形で載っている頁なのですが、右利き用と左利き用を教科書の見開きで、児童の手の大きさに合わせて、どちらもわかりやすく説明する工夫が見られたという話が調査員の中でも出ておりました。

○大下教育長

あと実際に硬筆も毛筆も書き方を学ぶだけではなく、それを実生活とか他の教科に生かしていくことが大事なので、それに関しては何か各者特色がございましたでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

各者とも、この学習が他教科のどの活動に生かされるのかといったことを意識した教科書づくりがされておりました。東京書籍に関しましては、例えば「国語のノートの縦書き、箇条書きはこのように書くとノートが見やすくなりますよ」や、「書き出しの部分は先頭を揃えて書く」などのポイントを児童がわかりやすい書き方で例示をしているという調査員の報告もございました。

○大下教育長

実生活との関わりについては、先程の説明もありましたが、東書だけがそういう優位性があるということではなく光村は別冊を設けられていたり、教出も該当項目毎にそれぞれまとめられているということであったでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

はい、記載をされているという点については、その通りでございます。

○野口委員

どの教科書も大変わかりやすくていいなと思えますが、特に毛筆の場合は、いわゆるお稽古事として経験している子と、全くお稽古事として経験していない子との差はやはりあると思えます。書写の場合は、学校教育においては経験のない子も不安なく取り組めるように、しかも週1時間という授業実数で時間数的にはそんなに取れない中で、しっかりと習得すべきことを習得するために、ある意味毛筆への最初のステップをわかりやすくコンパクトに子ども達に示している、そういう点ではどの教科書がいいのだろうかと思います。調査の中ではどのようなご意見があったでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

どの教科書会社につきましても、毛筆へのいざないといたしますか、1年生の段階から、水書

き用のシートがついていました。水彩絵の具で使う筆を使って、書写の運筆、始筆からどこに力を入れて、少し力を抜いて最後またどこで力を入れるかを、服が汚れないような水書き用のシートをつけて、書写へのいざないができるような工夫されていると調査員も申しあげました。

○谷口委員

私は悪筆なので、3者のどの教科書を見ても素晴らしいなど、これらの教科書で勉強していたら、もうちょっと字が上手くなったのではなど思っていたのですけれども、QRコードに関してはいかがでしょうか。3者とも扱いに差はあったのでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

QRコードにつきましては、どの者につきましても、鉛筆の持ち方、それから、正しい姿勢、そして光村図書に関しましては右利き用と左利き用を分けて、3年生だけではなくて、他学年でも確認できるように、4年生の教科書にも掲載されていました。掲載数の面では、光村図書が一番多かったとの報告を受けております。

○和田委員

学習するにあたっての練習や振り返りについて、調査員さんの中ではどういう意見があったのでしょうか。

○関根人権教育課指導主事

学習の振り返りについても、各者とも様々な工夫がされておりました。東京書籍に関しましては、すべての学年において、それまでの学年で学習した内容をまとめた頁が掲載されています。例えば一例を申し上げますと3年生でしたら3年生だけではなくて、1年生から3年生までの学習が振り返られるような工夫がなされておりました。教育出版に関しましては、教科書の目次の冒頭に、この学年に学習することはこんなことだというように、まず最初に説明して学習に入っていくという流れとなっておりました。光村図書に関しましては、同じく各学年で学習したことを巻頭の一番最後の頁に載せてまとめておりました。ただ1年生から6年生まですべての学年をまとめて書かれていたのは、東京書籍でございます。光村図書に関しましては3年生から6年生まで、教育出版に関しましては、2年生から6年生までと差異がございました。

○大下教育長

先程、谷口委員からQRコードの話が出たのですけれども、授業を進める中で、教科書に基本的なことが載っている方が教えやすいのか、そうではなくQRコードを1人1台あるタブレットで見てそこにすべて載っている方が教えやすいのか、その点ではいかがでしょうか。各者少し違いがあったような気がします。

○関根人権教育課指導主事

調査員の話し合いの中では、QRコードで個別に自分自身で学習を振り返ったり、あるいは個別に、家庭にタブレットを持ち帰って学習をしたりできる、また、授業の中では、冒頭でご質問にお答えした東京書籍のわかりやすい日本語をそのまま教科書に掲載するなど、授業者として授業では扱いやすいのではないかといった、調査員の発言がありました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

いずれの教科書も非常に工夫をしていただいて、子ども達が学びやすい実態が備えてあり、大変有難く思っております。私が最初に質問申し上げたように、鉛筆の持ち方というのが一番最初に大事になってくるところで、やはり子ども達が自分の体の大きさに合わせて、手を実際紙面にあてがって見られるということで、そこは非常に特徴的であったなということと、QRコードをどちらに重きを置くかということなのではございますが、自学自習の習慣がついている子どもは家に帰って振り返ったり、改めて見てみて深めていったりということで大変役に立つのですけれども、やはり授業でまず教えやすいという観点が非常に大事ではないかと思えます。いずれも大きなところで差はなくて、素晴らしい点がそれぞれ備わっているのですが、今までの議論を聞く中では、東京書籍が一番優位性があるのではないかという印象を持ちました。

書写については、東京書籍ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、書写は東京書籍ということで採択したいと思えます。

次は、社会の審議に入ります。説明をお願いします。

○西川学校教育課指導主事

社会は、東京書籍、教育出版、日本文教出版、以上3者でございます。答申の中で、主に二つに絞ってまず説明いたします。1点目が資料の豊富さについてです。3者とも、地図などの資料が豊富に掲載されていると、調査員の中で話がありました。その中でも、単元の導入頁を見比べてみると、東京書籍がより充実しているとの話がありました。2点目がめあてについて比べてみました。3者とも本人のめあての表記は充実していて、問題解決型学習の展開例も示されておりました。その中でも、東京書籍は単元を通しためあての表記があることが特徴的だという話が調査員から出ておりました。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

教出の教科書の中で、多分資料集の中でももともとは白黒だった写真が綺麗なカラー写真になっていて、読みやすいと私は思ったのですが、それに対して調査員から特に意見は出ていませんでしたか。

○西川学校教育課指導主事

調査員からは、とても新鮮味があって、昔の白黒の写真がカラーになっているということで、当時の出来事をより身近にとらえて、人々の思いをより深く理解しながら、歴史について学ぶことができるのではないかという意見がありました。一方で、白黒の写真のままであっても写真を読み取るという点では、特に大きな問題ではないかなという意見も出ておりました。

○大下教育長

先程の説明で、単元の導入の頁で東書がより充実しているということでしたが、どういう点でそのように判断されたのでしょうか。

○西川学校教育課指導主事

実際に縄文時代、平安時代など、同じ時代の単元頁で比べた際に、写真や絵、地図の点数が一番多かったのが、東京書籍でした。単元導入の授業場面では、子ども達が写真から気づいたことを読み取ったり、読み取ったことをクラスで共有したりすることも多いという話でした。

資料がより充実している方が、どの資料に焦点を当てて読み取っていくかという選択肢も広がるのではないかと、調査員から意見が出ておりました。

○植原教育長職務代理者

体験や経験の中で子ども達がどう気づくか、それを受けて教科書というのは設定されるわけですね。3者見せてもらいますと、写真や資料がとても多いです。中学校に入ったら資料読解能力も大事なのですけれど、学校現場として子どもに気づかせやすい資料、もしそういうのがあれば、教えてもらえれば有難いと思います。

○西川学校教育課指導主事

調査員の中で、6年生の歴史の米づくりの頁について3者で比較した時に、写真から気づいたこと、思ったこと、わかったことは何ですかと授業の中で取り扱った時に、多様な意見がより出やすいのが、東京書籍の写真や絵ではないかと調査員の話の中で出ておりました。

○植原教育長職務代理者

多様性というか色々な角度から子どもの意見が出やすいと。そうしたら学習指導要領の対話的学習や深い学びに繋がる可能性はありますか。

○西川学校教育課指導主事

特に単元の導入なので、写真とか資料にスポットを当てることで、多様な考えを出す中、子ども達の学習意欲が高まることにも繋がる、まず関心意欲から入ってそこから深めていくことができるという話が出ておりました。

○大下教育長

低学年で学ぶ生活との繋がりという点はどうでしょうか。

○西川学校教育課指導主事

3者とも、巻頭から、最初の単元において、教科書の使い方について掲載がありましたが、東京書籍は、生活科でどのように学んで、どのように社会科へつなげているかという記載もございました。教育出版も、生活科に関して記載がございました。日文は、生活科に関して、3年生でこのような単元の学習をしますというのがわかりやすい表記があったと調査員の中では話がありました。

○谷口委員

日文の教科書の中で、大阪府に関する歴史的な記載などが目立つような気がしました。他の2者さんに比べて優位になるというふうに判断していいのでしょうか。それとも、他に何かリカバリーできるような手だてがあるのでしょうか。

○西川学校教育課指導主事

調査員から東京書籍、教育出版に比べて、日文が大阪府に関係する地名や特産品の記載が約倍ほどあるという話が出ておりました。ただその中でも、社会科に関しては、岸和田市の3年生4年生は、岸和田や大阪に特化した内容の独自の副読本を使っておりますので、それを中心に学ぶという点においては、大阪府に関する記載の差があったとしてもどこかの者に優位性があるという話にはなりませんでした。

○野口委員

今やはり小学校でも学び方としてすごく大事なのは、子ども達が自ら課題を見つけて、自ら考えて学習していくというところであると思います。東書では、単元の初めにつかむ・調べる・

まとめる・いかす、そういう展開があり、教出では、インデックスがわかりやすく付けられていて、使う・調べる・まとめるとされています。日本文教でも、各頁に何々したのだろうかと問いかけがなされています。それぞれの頁の下に何々する力をつけようという形で投げかけて考えて、自分たちで学習させるという工夫がされているのだと思いますが、その中で、自分達はその教科書を使って、自ら学習を進めていくにあたって、どの教科書が使いやすいという話が出ていましたでしょうか。

○西川学校教育課指導主事

3者とも、少しの違いはあっても、問題解決型学習の型が丁寧に明示されているという話がありました。その中で、先程めあてについてお話したのですが、東京書籍が、単元を貫いたためあての表記があり、これが特徴的だという話が調査員から出ました。もう少し具体的に聞いてみたところ、単元を通してためあてをより具体的に示したものが、毎時間の本のめあてとなっているとのことでした。授業を進めていく上で、単元を通してためあてを指導者も子どもも意識することで、単元内の学習の繋がりを大切にできる、そのような授業の進め方に繋がるのではないかという話が調査員から出ておりました。単元をつなぐための表記があるというのが、東京書籍の大きな特徴であると調査員から話が出ました。

○和田委員

領土問題やアイヌ民族、外国との繋がりなどが掲載されていましたが、子どもにわかりやすいような内容となっているのはどの者であったのでしょうか。

○西川学校教育課指導主事

アイヌの話について、教育出版と日文は6年生、東京書籍は5年生の教科書で掲載があるなど、取り扱っている学年の違いの話はありましたが、取扱い方に関しては調査員の中で話はありませんでした。

外国の繋がりについての各者の比較の違いは、6年生の世界の中の日本、日本と繋がり深い国々のところで、取り扱っている国の数に違いがありました。3者とも、アメリカ、中国、ブラジル、韓国の取扱いがあるのですが、教育出版はその4国にプラスしてサウジアラビア、東京書籍はその4国にプラスしてフランスとサウジアラビアと、東京書籍が6ヶ国の扱いがあると調査員からの話がありました。

○野口委員

東京書籍は歴史分野と政治国際という2分冊になっていますけれど、教出と日本文教は1冊ですよね。それについては調査員の方からは何か意見が出ていましたか。

○西川学校教育課指導主事

調査員の中で話になりましたが、どちらが使いやすいという結論は出ませんでした。1冊であれば、どの単元の学習中でも、すぐに学習した単元に振り返ることができるが、仮に2冊であり、手元にない教科の内容であったとしても、教室の環境がICTが進んでいますので、指導者がデジタル教科書をモニターに大きく提示して、手元にない教科書の情報もすぐに可視化できるかなとの話が出ておりました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

やはり単元を貫いたためあてというところに非常に特色があつて、各小単元の問題にも繋がっ

ていくだろうということであるとか、写真地図などの資料が豊富であって、それから気づいたことを児童に考えさせて多様な意見が出やすい構成にしている、それは、今求められている対話的で深い学びにも繋がるのではないかということで、いずれの教科書もすぐれた点が非常に多いのですけれども、特に今の点から、東京書籍が一番優位性があるのではないかという印象を持ちました。ただデータがあまりに多すぎると子ども達が混乱しますので、しっかりと絞って提示をし、授業で工夫していただくことをご留意いただきたいと思います。

社会については東京書籍ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、社会は東京書籍ということで採択したいと思います。

次は、地図の審議に入ります。説明をお願いします。

○西川学校教育課指導主事

地図は、東京書籍、帝国書院、以上2者でございます。3年生から地図の学習が始まりますが、初めて地図の学習をするという点に絞って話が出ました。2者とも、地図のきまり、地図帳の使い方など地図の基礎を学ぶ頁が充実しているという話が調査員から出ておりました。また、SDGs についての取扱いについてですが、東京書籍はSDGs に関する特別サイトがありインターネットでアクセスすることができるようになっていました。帝国書院は、地図帳内に約25頁にわたって掲載があり、地図帳全体で地球的課題を把握して、自分ごととして解決策を考えられる工夫や、さらには見開き1頁にSDGs の特設ページも設けられているという話も出ていました。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

3年生から初めて地図を見るということですが、両者とも最初に使い方を記載されているという点をもう少し詳しく教えていただきたいのと、SDGs の話で、一方はインターネットで見ると、一方は25頁に渡り記載されているとでは、どちらの方が使いやすいのか、その点について、もう少し詳しく教えて下さい。

○西川学校教育課指導主事

地図のきまり、地図帳の使い方が、東京書籍は8頁にわたって、帝国書院は4頁にわたって取扱いがあります。どちらも充実はしていますが、帝国書院は、1頁あたりの情報量がすごく厳選されて少なくなっています。しかし、その点において、3年生の発達段階において、少ない情報量なのでより理解しやすい工夫があるのではないかという話が、調査員から出ておりました。また、帝国書院は、広く見たわす地図という頁があり、通常の写真に比べて、地名等の表記を減らしている構成になっております。初めて地図学習を行う3年生にとっては、情報量が少ないという点で、とても扱いやすい工夫になっているのではないかという話が、調査員から出ておりました。SDGs については、東京書籍は地図帳内では1頁の扱いになっていました。別に東京書籍のサイトにつないでみると特設サイトがあり、そちらにはSDGs の充実した内容のクイズや、SDGs とはというのが掲載されておりました。帝国書院はSDGs、日本、世界におけるSDGs、こんな取組がある、というような内容が全体にコンスタントに掲載されていたり、どの頁を開いてもSDGs のコラム掲載されていて、地図帳を使ってSDGs を学習していく上では、

この25頁ある帝国書院の方が使いやすいのではないかという調査員の話がありました。

○谷口委員

地図を見た時いつも私が思うのは、固有の領土である北方4島、竹島など、外国との関わりについて固有の領土であるということ、3年生以上になれば、その背景を知ることが大切だと思います。また、どの位置にそれらがあるのかを知ったりなど、そういった点では、帝国書院は非常にまとめられていて、はっきりわかるような形に構成されていると思います。そういった話は出ていませんか。

○西川学校教育課指導主事

2者とも日本固有の領土について記載がありました。調査員の中では、今、委員がおっしゃったように、帝国書院が、領土の紹介の写真の数が多く掲載されていることや、どの位置にあるのがよりわかりやすい頁構成になっているとの話が出ておりました。

○野口委員

どちらも子ども達が興味をもって扱っていただける地図であると思えました。また、話にありましたように、中学年の子供達が扱い始めた時に使いやすいものとして、広く見わたす地図は、授業に関係なくても子ども達が興味を持って見てくれるのではないかという印象を持ちました。あとどちらの地図にも、自然災害についての記載がされていますが、東書の巻末の自然災害マップは、本当に現在の課題に理解を深めるようにされていましたし、帝国は自然災害や、地震の分布の地図は小さい印象を持ちましたが、でも、世界の地震分布が示されていて、今世界全体が色々な災害について考えていけないといけないう中で、いい資料だなという感想を持ちました。この資料について、高学年になれば、地図と同時に巻末にある様々な資料を使うと思うのですが、帝国の資料はたくさん内容があるために文字は少し小さいですが、内容はすごく豊富で、世界の統計の中では、本当に小さい国でもたくさん取り上げているという点では、国の数、資料的には充実していると思えました。巻末の農産物等の生産高順もグラフで示しており、他教科との関連もあるかもしれませんが、子ども達が様々な能力を高められるような資料になっている点で、帝国の方が授業の中では使いやすいという印象を私自身としては持ちました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

東書の地図で感心したのは、琵琶湖ってものすごく我々大きいものだと思うのですけれど、世界から見たらこんなに小さいのかというのがよりわかりやすいのが、東書なのかなというふうに思いました。それと、歴史でいつも日本通史世界通史を学ぶのですが、日本の歴史のある時点で世界でどんなことが起こっているかというのが実は大事で、日本の歴史教育は我々が受けたものはそれが弱かったんですね。東書の後ろのデータには、日本の歴史年表が書いてありながら、世界ではこれでこんなことがありましたというのが非常に参考になり、感心をいたしました。ただ地図帳でそこまで求められるかどうかというのは、私自身、教育の専門家ではないのですが、多分他の教科でもそういうことは意識して学ばれるのだろうということは理解をいたしました。そんな中で、今総じて議論をお聞きしておりますと、日本固有の領土について写真も潤沢に載せられて、位置関係もわかりやすい、資料についても小さな国のデータまで取り上げて、非常に豊富に展開されている、そしてやはり地図帳に大事なものは、全体の中で

まずどの位置を占めていて、その中でその地域がどういうふうな地形になっているかという、俯瞰的に見た上で細部を見るというのが大事なので、そういう意味では、帝国書院に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

地図については帝国書院ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、地図は帝国書院ということで採択したいと思います。

次は、算数の審議に入ります。説明をお願いします。

○東学校教育課指導主事

算数は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版、以上6者でございます。大きく3つの視点においてご説明させていただきます。まず1点目、本の冊数や作り、内容の構成については、調査員から、入門期の取扱いがかなり話題に上がっており、1年生の子ども達にとって、薄く、そして、中身も大きくてわかりやすいものが重要であるという意見が多くありました。2点目、日常生活や他教科、あるいは他の分野の教育活動との繋がりを意識しているかどうか、3点目、数学的な見方、考え方を働かせて、どのように学びを進めていくかという点において、調査いたしました。子ども達が学習を進める上で、難しさを感じたり、今後の学習に大きな影響を与えたりするような主要な単元につきましては、導入部分が非常に丁寧に扱われているものが重要だと調査員からは出ておりました。その点においては、3年生の割り算、こちらの導入部分では、まず分けられないものを分けるにはどうしたらいいかという導入部分が、東京書籍と大日本図書には掲載がございました。そこから、個別に分けられるものというように丁寧に導入部分が扱われているという調査員からの意見がございました。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○野口委員

入門期の1年生の算数が大事であるとの話がありましたが、そのとおりであると思います。1年生の子ども達にとっては、具体物を操作して数の概念をしっかりと身に付けるということが大事だと思いますので、例えば数ブロックや色カードなどを実際に使って、具体的な経験をして数を身に付けるということがしやすい教科書となればどれがという話はお出なかったでしょうか。

○東学校教育課指導主事

まず本が2冊に分かれているものは5者あり、そのうち、入門期の教科書が大きなサイズになっているものが、東京書籍、大日本図書、啓林館、この3者でした。3者ともブロック操作はできるのですが、東京書籍のブロック操作の部分にはしっかりとスペースが設けられており、子ども達にとってとても操作がしやすいのではないかという意見が出ておりました。

○野口委員

入門期の1年生で、教科書に直接書き込める欄があったと思うのですが、その書き込み欄の大きさも色々であったと思います。そういった話は出ていたのでしょうか。

○東学校教育課指導主事

入門期において、数の一対一対応というのは非常に重要なところです。より一対一対応を意

識したつくりになっているという意見が出たのが、東京書籍と日本文教でした。また、入門期の教科書に直接字を書くという点においては、東京書籍の方がよりマス目が大きく、1年生の子ども達にも無理なく書ける大きさではないかという意見が出ておりました。

○野口委員

高学年になってくると、色々な考え方で正答へ辿り着いていくという点で、もちろん効率的な解の求め方も大事ですが、子どもが色々な発想をして「こうやっても求められるよね」、「こういうやり方でもいけるよね」などしっかりと話し合っ、その中で、子ども達自身が一番効率的な正答への道を自ら見つけてくれたら一番いいなと思います。そういう意味では幅広さを持っている教科書が、私は子ども達にとって大事なのではないかと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○東学校教育課指導主事

小学校算数の単元の中で、5年生の割合が非常に大きな単元だというふうに調査員が申ししておりましたが、特徴的だったのが、東京書籍と日本文教出版でした。とりわけ、東京書籍は導入部分で見開き1頁を使って、非常に丁寧に子ども達の考えを既習事項とこれから考えていく考え方もつなげるという意味では、有効ではないかという話が出ておりました。

○谷口委員

学校図書では6年生の別冊があつて、中学校への橋渡しのような役割であるのかと思いますが、算数から数学に移行するときに数学嫌いが発生しないよう、別冊があつた方がよいということでしょうか。

○東学校教育課指導主事

学校図書の別冊につきましては、非常に良くまとまっています、6学年の学習の総振り返りができるようになっていますが、それを学習の中で取り上げるには、なかなか現実的に難しいところがあるのではないかと、他者にも中学校の移行を意識したコラムや補充問題、発展問題などの取扱いもあるので、特に別冊がなくても大丈夫ではないかという意見が出ました。

○大下教育長

それぞれの子どもの習熟度に応じて、軽易な問題から発展的な問題まで必要だと思うのですが、その点において各者何か特色がございますか。

○東学校教育課指導主事

どの会社の教科書にも、基礎基本の問題、応用問題、また発展に繋がるような問題がありますが、日本文教の巻末のガイドラインという頁は習熟度が明確で扱いやすいのではないかと、調査員の意見が出ておりました。

○植原教育長職務代理者

算数については、数学的な学び方考え方に主眼を置いてやっていきます。幼稚園の段階では、図形という10の姿、その流れの中で数学の見方や考え方を学びます。特に数学は深い学びを行うこととなりますが、そのような中一番日常生活に関連付けやすいものはどれでしょうか。調査員の意見はどうですか。

○東学校教育課指導主事

各者、日常生活に関連した題材をもちろん扱っています。3年生の割り算の導入では、個別に1個1個のものではない焼きそばを家族で分ける具体的な問題を提示し、大人の人が多い量

だったり、子どもは少なかったりというように考えさせたり、東京書籍は、子どもに身近なケーキを4人で分けるという問題を扱うことにより、4分の1という分数の考え方につなげているところがございました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

一般的に、算数というのは、比較的好き嫌いがはっきり出やすい教科、苦手意識を持ちやすい教科という理解をしています。その点、教育現場で教鞭を執られていてどう思われますか。

○東学校教育課指導主事

やはり入門期の算数との出会いの場が、非常に大きなウエイトを占めるのではないかと考えられます。

○大下教育長

わかりました。自分だけかと思っていたのですけれど、一般的にそういう傾向があるというのをお聞きしました。やはり、子どもの最初の段階で、算数嫌いを作らないというのがまず一番のスタートかと思いました。そういう意味で、入門期の取扱いや導入部分が大変重要であるという報告とは大きく領けるところで、そんな中で、やはりブロックの操作において、十分子ども達が扱いやすいようなスペースをもって配慮してある点であるとか、あるいはマス目を大きくとって小さな子どもにも書きやすいものになっていることで、入門期導入期におけるすべてで算数上の配慮がしてある。それから、野口委員からございましたが、やはり話し合い互いに結びつけていくという観点が大事な中、5年生の割合で様々な考えを提示して、特に複数の者がそれを意識されていますが、東書は見開き1頁でそれを丁寧に記載している、以上の点から、東京書籍に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

算数については東京書籍ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、算数は東京書籍ということで採択したいと思います。

次は、理科の審議に入ります。説明をお願いします。

○出水学校教育課指導主事

理科は、東京書籍、大日本、学校図書、教育出版、啓林館、以上5者でございます。調査員からは様々な意見が出たのですが、共通しているところが多かったので、その点を説明させていただきます。どの者も学びのタイプということで、「見つける・調べる・まとめる」とそのようなサイクルで構成されていたというところ、教科書の中に外国にルーツを持つ子どもや車椅子の子どもなど、そういった人権的な配慮もされていたというところ、他教科との繋がり、特に算数との繋がりを取り上げていたというところ、予想や考察の場面では、対話形式になっていて、協働的な学びを意識して構成されていたところ、日常生活や社会との関係をコラムで取り上げているというようなところ、このようなところが5者とも共通していたところでした。その中で、各者の特徴として、調査員の中で出てきたことでは、東京書籍、大日本図書では、教科書がA4版と大きく、写真やイラストも大きく取り扱われていました。子どもの興味を引くような構成になっていた、題名や余白が多いというところも教科書を見る上でわかりやすいのではないかという話が出ていました。学校図書では、単元の配列が他の4者と異なっているところがあったという話がありました。教育出版では、実験の予想や考察の場面で、対話形式

で書かれているので、学びが深まるように工夫されているところが特徴的であった、啓林館は、現在、小学校の方で使用されている教科書ですので、子ども達も慣れていているところがあるという話が調査員の中では出ていました。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○植原教育長職務代理者

学習指導要領が変わって、幼稚園で自然など、そこから生活科に変遷したその流れの中で、観察実験を行う際、栽培や自然があつて予想や仮説を立てる、そして実験をする、予想や仮説を立てることによって子ども達に科学的な見方を育成するという理科の主たるものがありますが、それに関して、調査員さんから何か意見は出ていますか。その点があれば、幼稚園からの一貫性が出てくると思います。

○出水学校教育課指導主事

調査員の中では、教育出版の実験観察に関して、対話形式で示され、考え方の鍵や見方の鍵というマークがついていて、さらにその部分にマーカーが引かれていることによって、特にポイントとしてわかりやすいと話が出ていました。

○植原教育長職務代理者

そのポイントを見て、子ども達の意見対応的学習が進められる、そこから対応的な意見、深い学び、日常性の関連ってというのは、現場として繋がりやすいでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

調査員の中では、考えを進める中で困っている子どものヒントになったり、考えを深めるといふ点においても、考え方の鍵というところで深めることで、日常生活にも発展させて繋げていくことができるという話が出ていました。

○谷口委員

東京書籍、大日本図書のA4版について、大きい・わかりやすいとメリットとして捉えられておりますが、理科だと実験などで机の上にも様々な道具を置くため、デメリットになるというようなことはないのかなあと危惧するのですけれどその点はいかがでしょう。

○出水学校教育課指導主事

調査員の中では、教室で使う時もタブレットを使って作業するという授業が数多くあり、その中で教科書やノート、そしてタブレットも机の上に出してという状況になると、子どもにとっては大きな教科書が使いにくいということになるのではないかという意見がありました。

○谷口委員

A4が裏腹になり大きいことが使いにくいということもあるということでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

調査員からもそのような意見が出ておりました。

○大下教育長

学校図書の単元の配列が他者と異なっているという説明がありましたが、わかりやすく説明していただけますか。

○出水学校教育課指導主事

学校図書の4年生の教科書の中で、水の三つの姿と、あと物の堆積と温度という単元がある

のですが、この水の三つの姿が先に来ていまして、物の堆積と温度が後に来ています。この水の三つの姿の中で、水が温まると水蒸気になって体積が膨らむという話がもう出てくるのですが、そのあとに、物の堆積と温度で水を温めると体積はどうなりますかというような質問が出てくる部分があり、後に出てきても既にもう学習しているので、先に知っているという状況になります。調査員の中では、この単元の配列では、子どもに指導する際、難しくなるのではないかという話も出ていました。

○谷口委員

啓林館にはワークシートがついていますが、それに関するメリットデメリットについて、調査員からは何か意見が出ていましたか。

○出水学校教育課指導主事

付属のワークシート等を現在活用している状況はありますが、先生によっては、子ども達に書かせたい部分や教えたい部分が、付属のワークシートとは異なってくることが考えられます。そのため、もう一度自分でプリントを作り直すことがあるという話がありました。もちろんワークシートを使えるような活用できる授業であればいいのですが、やはり活用できない授業もあるということは、調査員の方でも話がありました。

○和田委員

理科の教科書は、子どもにいかに関心を惹かせるかが大事かなと思います。教出の5年生の台風の写真で積乱雲の壁がわかるようなイラストが載っていて、子ども達はすごいと興奮をしていました。他にも様々な写真などで、興味を引くように作られていると思うのですが、この5者の中だとどれが一番興味を引くという話は出ていましたでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

先程の東京書籍、大日本でももちろん写真イラストが大きく掲載されています。今、お話に出ました教育出版でも、躍動的な写真やイラスト等、体の臓器について、見開き1頁分で書かれているイラスト、これを体に当てたら本当に体の中身が見えているような形になるものなど、児童の興味を引くようなものも、掲載されているという話が出ていました。

○野口委員

理科学習の中で、子ども達に「これはどうなっているのだろう」「どう変化するのだろう」と、興味をしっかりとって観察や実験をしてもらいたいと思います。ただ、様々な目標があると、やはり絶対、実験事故を起こしてはならないということです。子ども達の命に関わることで、実験についての安全面で、もちろん指導する教師がきちっと教えるのは当然ですが、子ども達も、注意事項をはっきりと体得でき、安全面でしっかりと配慮されているということが大事であると思いますが、その点はどうでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

各者、器具の使い方であったり、理科室の使い方での注意事項が掲載されていますが、特に教育出版では、裏表紙に各学年の理科の安全の手引きとして、特に起こりやすい事故、火傷やけがなどに繋がるような行為というのを例示しています。机の上に置いているだけでも目にするので、こういったことに気をつけようという注意喚起になると調査員の中では話が出ていました。

○大下教育長

今、安全の手引きの件で裏表紙にと言うことですが、子どもは余り後ろを振り返らないので、教科書の中でそれぞれの危険箇所に注意喚起があった方が良いのですが、その点はどうなっているのでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

授業中、子どもたちは教科書を開いているページで学びますが、授業前に机の上に置いている段階でも、この安全の手引きを見て、実験前に注意することができるのでないかということが、調査員の中で話が出ました。

○大下教育長

見る限りは、該当する頁にもそれぞれ危険というマークをもって注意喚起していますね。そういう意味では、他者と変わるようなことはなく、それぞれの危険と思われる箇所には、適宜必要な注意喚起がしてあるということによろしいでしょうか。

○出水学校教育課指導主事

はい、そうです。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

各者それぞれ工夫していただくので、なかなか選びがたいのですが、やはり理科というのは何故というところから始まって科学的に追求していくという姿勢が大事であると思います。お話を聞いていますと、考え方の鍵・見方の鍵というポイントを明示して、そこで少し戸惑っているというか、困っている子にもヒントを与える、そういう内容になっている、子ども達の対応を深めるような内容になっている、さらには日常生活につなげる、そういうところの視点から、教育出版に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

理科については教育出版ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、理科は教育出版ということで採択したいと思います。

次は、生活の審議に入ります。説明をお願いします。

○佐藤人権教育課指導主事

生活は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書、啓林館、以上6者でございます。生活科は1・2年生を対象にしておりますので、本当に子ども達が楽しく学べるように、イラスト写真動画、これを中心に構成されているという報告を受けております。その中で特に3点、重要なポイントをご説明いたします。一つ目のポイントとしては、スタートカリキュラムについて、幼児教育と小学校教育をつなぐ観点としてスタートカリキュラムがいかに配置されているかという観点です。その中で、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿をイラストで明示しているのは東京書籍、教育出版、光村図書、啓林館の4者ございました。その姿をイラストで明示することで、子ども達もイメージしやすく、またその姿を小学校で生かしやすいように工夫されておりました。二つ目のポイントとしては、学習の流れについてです。各者、問題解決学習の流れをきちんとそのページに順序よく構成されているので、学びやすくなっているのですが、特に3者、東京書籍、教育出版、啓林館に至っては、希望マーク、それから文字を使って、観点が明示されておりました。それにより、同じ流れで設定されているので

すが、学習の流れがより子ども達にも先生にも、そして保護者の方にもわかりやすい構成になっていると報告を受けております。三つ目のポイントは、学び方の工夫についてです。これは個別に学習しやすいように、どの者も QR コードを使って、子ども達が興味あったものを特に調べやすく、また興味を持ちやすいように配置されています。また、協働的な学びに繋がるように、話し合い活動をイラストで表すことによって、話し合いのイメージを持ちやすく、どの者も工夫されていると報告を受けています。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○植原教育長職務代理者

生活科というのが、一番の主たる幼小の連携であると思います。10の姿を学習した子ども達に生活科の中で気づくことが大切であると思います。教科書を選択する上で、子ども達がこの教科書を見たら気づくだろう、日常生活に繋がるだろうということについて、調査員ではどのような意見が出たのでしょうか。

○佐藤人権教育課指導主事

子ども達にとっても、また、先生にとっても使いやすいという話になりましたのが、教育出版でした。観点がきちんと書かれていますので、どこのポイントを学習したらいいということが、わかりやすく伝えることができるということです。また、保護者向けにその観点が明示されている頁もあります。巻頭に、学習をしていく観点が示されているので、子どもにも先生にも保護者にも、わかりやすい構成になっているという話が出ていました。

○大下教育長

生活というのは様々な教科に関わってきますが、他教科との関わりについて、子ども達が学びやすい、教員もまた教えやすいというのは何か各者の特色がございますか。

○佐藤人権教育課指導主事

各者、巻末に付属の頁を設けており、活動のヒントや物の見方のヒントなどを中心に掲載されています。教育出版の学びのポケットという頁では、この活動は他の教科のこの部分で使いますと明示されています。また、その学びのポケットがそれぞれの生活科の単元の中で、この単元では学びのポケットの何番と何番が必要ですよということも掲載されているので、非常にわかりやすいと調査員から報告を受けております。

○谷口委員

生活というのは算数などと違って、答えが一つしかないとかいう形ではないので、教える側の先生方も難しいし、評価も難しいと思います。こう教えてこう評価するというような指導しやすい教科書に関しては、どの教科書であるといった話は出ていませんでしたか。

○佐藤人権教育課指導主事

観点が明示されている3者が、特に評価をしやすいというふうな話が出ました。東京書籍は、「! (びっくりマーク)」「? (はてなマーク)」「♡ (ハートマーク)」、教育出版は、「きづく」「かんがえる」「つたえる」、啓林館は、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」、と PDCA サイクルをわかりやすく自然に子ども自ら行えるよう三つの流れで構成されていると、調査員の中で話が出ました。

○野口委員

それぞれ見ている楽しい教科書ばかりですが、例えば東書の、「本当の大きさ生き物図鑑」では、その生き物の実際の大きさがわかるような写真掲載されていたり、学校図書の、「学び方図鑑」では、1年生の方では「物知り図鑑」ということで知的な興味をしっかりと引き付けるような工夫がされておりました。大日本図書に、朝顔に名前をつけるという活動があったのですが、これは生活科としてどうかという疑問を持ちながら見ました。たくさんご意見があった、教育出版の「学びのポケット」で、学びのポケットの番号が各活動のところに記されていて、子ども達が次の学習へ進んでいくのに、他の教科との繋がり等も関わって子ども達の助けになるのではないかという印象を持ちました。本当に様々な楽しい言葉がどの教科書にも散りばめられていて、「わくわくスイッチ」というのも自分なりの学びの流れがわかるようになっていいのではないかというふうに思いました。

○和田委員

私も、楽しく見させていただきました。光村が、全頁子ども達に馴染みのあるヨシタケさんの絵で、全面この絵を使っていて、また、ヨシタケさんの世界感が中身も全部揃っているのので、家庭も巻き込んで色々学べるのかなと思いました。教育出版も、キャラクターのインフラさんが道路を歩いて梯子を上って学習を進めていくというのが、子ども達も楽しめるかなと思いましたが、キャラクターの面では何かお話がありましたでしょうか。

○佐藤人権教育課指導主事

各学校の図書室や書店にも並んでいることもあるので、ヨシタケさんの認知度は高く、調査の中でも大変話題にはなりました。ヨシタケさんの良さとして、色々な子ども達の見方考え方を認めている、すごく温かい雰囲気をつくりになっているという話になりました。ただ、自由であることを許容し過ぎてしまうと、授業でも色々な意見が出すぎてしまってまとめるのが難しいところや、観点がやはり明示されていませんので、経験のある先生は指導できるが、経験の浅い先生は指導が難しいのではという話にはなっていました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

まず生活については気づくことが非常に重要で、その点で観点がしっかりと書かれていて、保護者にもそれが明記されるような形になっているという点、それから私が指摘をしました、他教科との関連性について、学びのポケットでしっかりと各単位に関しても、その学びのどの部分のポケットというのが明示をされていて、子ども達もそれを意識しながら学ぶことができるという観点から、教育出版に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

生活については教育出版ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、生活は教育出版ということで採択したいと思います。

次は、音楽の審議に入ります。説明をお願いします。

○関口学校教育課指導主事

音楽は、教育出版、教育芸術社、以上2者でございます。それぞれの観点について、子ども達が音楽に触れ、自由に伸びやかな歌唱や鑑賞を楽しむ、それと同時に、無理なく知識技能に、学びにつなげられるという点を基本に調査員は調査をしておりました。2者とも表現活動、鑑

賞活動を通して、子ども達を深い学びに導く工夫が凝らされているという調査結果でしたが、その中で特に調査員の調査、また選定委員会で取り上げられていた点を説明させていただきます。まず1点目に、3年生で初めて触れるリコーダーについてです。教育芸術社では、単音での練習から短期集中的に音を増やして、習得できるようになっているという報告でした。また、演奏の姿勢や持ち方、リコーダーの各部名称などが写真とともに詳しく説明されていて、演奏の基本になるタンギングについても、非常に詳しく説明をされている、児童が専門的な知識を持って練習ができるような工夫が徹底してなされていると報告を受けております。教育出版では、単音の練習から徐々に音を増やして、細やかな、スモールステップで習得できる構成になっている、演奏の姿勢や持ち方であったり、リコーダーの各部名称なども、写真とともに説明がされていました。演奏の基本のタンギングについても、児童が楽しく練習できるような工夫がなされているということが、報告書に上がっておりました。2点目、表現活動についてですが、教育芸術社では、常に思考・判断・表現の学び方のヒントとなる「見つける」「考える」「伝える」というステップが設定をされており、低学年でも、リズムや手遊びで表現活動を促すとともに、題材ごとにそのマークを使用して、さらに学習を深めるための問いかけが提示されておりました。これにより、児童が学習する際に見通しを持って取り組むことができるのではないかとされていました。教育出版では、特に低学年では、一つの題材から歌唱、リズムや手遊びなど様々な表現活動に展開しやすいように、先生を真似るといところから始めて、自分達がやって、その後ゲーム的な要素を入れたペアやグループでの活動に繋がるような具体的な内容が多く紹介されていたということです。また、思考・判断・表現の学び方のヒントとなるものとして、「まなびナビ」というマークが使われて、より深い学びにつなげる助言が適度に例示をされていて、題材を音楽的に楽しむとともに、気づきを促して、思いを共有して考えるという時間を自然に作るができるという点が良かったということを調査で聞いております。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○植原教育長職務代理者

音楽は、私自身は得意ではないのですが、表現力が最も大事であると思います。表現活動という視点では、具体的にはどう子どもに使用し、指導しやすいか。意見が出ていましたら教えていただけたらと思います。

○関口学校教育課指導主事

調査員の中では、教育芸術社の「見つける」「考える」「伝える」という点を常に題材の中で提示されているというところも、非常に子ども達にわかりやすい活動ができるというご意見もありましたが、教育出版の「まなびナビ」の分量にも、制度的にも、今教えている子ども達には合ってる、またその音楽的な楽しみというところでゲーム性を持たせた活動であったり、ペアの活動、グループの活動にうまくつなげているなということが印象的だと、調査の中で話がありました。

○植原教育長職務代理者

表現活動という一面から見れば、次に繋がっていくのはゲーム性など、そういう部分がある方が良いというご意見が出たということでしょうか。もう少し詳しく教えてもらえますか。

○関口学校教育課指導主事

実際、授業されている調査員の先生の意見は、やはり子ども達が、まず、音楽に触れて、それを自分達、次は表現をしたり、その思いを伝えたり色々な想像を働かすという時に、楽しみながら学べるところが非常に有効ではないかという話が出ていました。音楽が好き嫌いとか、得意苦手というところで、子ども達がちょっと及び腰にならないように積極的に何か楽しんでできる仕掛けとしては、ペアやグループでの活動や、少しゲーム性を持たせた活動は非常に有効ではないかというお話でした。

○谷口委員

感想ですが、国歌について「さざれ石」をいつも教出は写真入りで解説してくれています。教芸は書いている時もあるのですけれど、割とさらっと触れている時もあります。今回は WBC のマナーが入ったのがよかったとは思いました。ただ、歌う時に「さざれ石」の部分での歌詞の切り方などは、「さざれ」と「石」が何か別物みたいな感じになってしまうので、「さざれ石」という一つの言葉であることを私自身も長い間知りませんでした。子どもの時にぜひ覚えておいて欲しいと思うので、教出のこの国歌の扱いは非常に賛成です。

○大下教育長

先程、音楽の場合は、楽しみながら子ども達が学んでいくことが重要であるとの観点を示していただきましたが、冒頭のリコーダーの部分で、やや教出と教芸との間では記載の仕方が異なるのが気になります。楽しみながらという点と、リコーダーの学習という面でもう少し詳しく説明していただけますか。

○関口学校教育課指導主事

リコーダーの学習ですが、調査員の先生からは、最初の導入でつまずいてしまうと、これから先、その子ども達がリコーダーに触れていく時に、もう嫌いだ、やりたくないというようなリコーダー嫌いの子も出てしまいます。どの子ども達にも興味を持って、そして吹けるという楽しみを味わわせながら教えていきたい、という指導者側の思いがある中で、教育出版は、まず、音の出る単音から入り、少し緩やかに一つずつ音を増やすことで、できる子ども達と苦手な子ども達がいても対応しやすく、そして音を出すことをしっかり身につけながら子ども達に楽しいという思いを持たせることができ、指導がしやすいのではないかというような話が出ておりました。

○野口委員

リコーダーの前に、1年生は今、鍵盤ハーモニカを扱っていると思うのですが、鍵盤ハーモニカも鍵盤を押さえるということと、吹くということを同時に行います。導入で自信を失ってしまったら嫌いになってしまい、また、劣等感を持ってしまうと大変嫌いになってしまいます。鍵盤ハーモニカの指導にとって、どちらの教科書の方が、子ども達が鍵盤ハーモニカを自分のものにしていけるかというご意見が出ているのでしょうか。

○関口学校教育課指導主事

鍵盤ハーモニカについても、リコーダーと同じように、導入部分には鍵盤ハーモニカの写真や説明があり、教育出版も教育芸術社も、吹く姿勢をわかりやすい写真を用いて紹介しておりました。教育出版には、頁にほぼ原寸大の鍵盤ハーモニカの写真があり、この場所がこの音が鳴ると示されていたり、ペアでの音遊びなども掲載されておりました。同じく教

育芸術社にも、少し写真は小さめですが、鍵盤ハーモニカの写真正があり、音の鳴る場所を示すような写真も掲載されておりました。また、音遊びについても掲載をされておりました。その中でやはり、教育出版と教育芸術社を比べてみたときに、身に着けていく音の増え方というところは、教育出版が緩やかで、まずはドの音のみで、次にドレミの3音、次の段階で、ドレミファソの5音というように学ぶ構成となっておりました。教育芸術社では、まず、第一段階でド・ソの2音、二段階目でドレミファソの5音というように学ぶ構成で、集中的に紹介をされているという特徴があり、リコーダーについてもハーモニカについても、緩やかに子ども達に楽しみながら余裕を持って指導していくという点では、教育出版が子ども達には適しているのでは、というような意見でした。

学習する際の音の数も、最初にドだけで練習するのか、二つの音を使って練習するのかというところで、音の高低もありますが、音の数的な緩やかさというところは、調査員が意識をしていました。

○和田委員

両者とも、富士山であったり、桜、紅葉の写真がすごく綺麗で、特に教出が見開きで富士山や桜の写真が掲載されていました。この点について歌詞との関連や、子どもが見たときの感覚など、何か話はありましたか。

○関口学校教育課指導主事

推薦理由にも記載をしているのですが、教育芸術社では、様々な曲に合う写真と、あわせてポップなイラストも数多くあり、児童が親しみを感じやすいように工夫をされていると調査員は言っていました。教育出版に関しては、曲題材に使用されている写真資料というのが、子ども達にとって、その歌詞や内容というのをイメージしやすいような写真が選ばれていて、イメージネーションを持たせ、表現活動の時に想像を膨らませるような写真が多く選択されていると、調査の中で意見が出ていました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

話を総合しますと、やはり子ども達が楽しみながら音楽に触れていくことが重要であるということから、ゲーム性を持たせたり、ペアやグループに繋がっていくような活動の内容が提示をされている、それがリコーダーや鍵盤ハーモニカにも適用される場合には、やはり緩やかに一つずつというスモールステップが重要であろう、あるいは、子ども達にとっての無理のない学習が必要だろうという意味で、音の増え方等々についても配慮がされているという点で、教育出版に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

音楽については教育出版ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、音楽は教育出版ということで採択したいと思います。

次は、図画工作の審議に入ります。説明をお願いします。

○山本学校教育課指導主事

図画工作は、開隆堂、日本文教出版、以上2者でございます。どの単元でも、「めあて」「使用道具」「注意事項」「ふりかえり」「つながる学び」や「タブレット端末の活用」など、両者とも少しの違いがありますが、統一されたページ配置になっております。題材の「めあて」に

について、学習指導要領で挙げられている3つの育てたい資質能力について設定しますが、開隆堂は「めあて」が焦点化されていて、日文は並列に扱われています。また、開隆堂では、「あわせて学ぼう」など関連する教科と意識させるポイントが掲載されて、日文では「つながる学び」で関連する教科が掲載されています。続いて、二次元コードについてですが、どちらも読み取ることで、用具の使い方や作品例を見ることができます。開隆堂では、作品カードや振り返りカードもあり、言語活動の手助けや協働的な学びを促しています。日文では、コマ送りアプリ機能などを活用した学習や道具の使用の確認時には、児童の状況や進度に合わせた学習ができると報告を受けております。SDGsについては、どちらもSDGsマークで記載されておりますが、開隆堂については、SDGsのマークと説明があります。日文ではSDGsという項目のみで、それについて探したり児童自身が考えたりできるという記載になっております。平和教育については、開隆堂では岡本太郎氏の作品が掲載されており、日文については、広島「原爆ドーム」、ピカソの「ゲルニカ」と長崎の児童が制作した「長崎のゲルニカ」が紹介され、どちらも平和について考えることができるようになっておりと報告を受けております。最後に、巻末の道具の使い方についてです。使い方、材料の特徴などが記載されているので、どちらも学習を進めるのに役立つようになっておりと報告を受けております。開隆堂では、「これまでのふりかえり」や「ひらめきショートチャレンジ」などの学びを深められる内容が取り上げられており、日文では、アートカードがあり、それを用いて対話を通して学習を深められる、という報告を受けております。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

社会に出て、プレゼン資料を作って、皆さんの前で説明する時に、示している説明箇所とプレゼン内容がよくわかるように、左下の表をご覧くださいという時にはポインターを使います。そんな中で両者の教科書を比較すると、写真や素材に番号が振ってあるものと番号が振ってないものがあります。授業を進める上で、どちらが使いやすいかという観点からいっていかかでしょうか。

○山本学校教育課指導主事

番号についても調査員の中では話になり、授業者としては、この番号を児童に示すことによって、わかりやすい、指導しやすいといった話は受けております。

○谷口委員

ものづくりということになりますので、やはり巻末の付録や振り返りで、また、アートカードがあっても、それをどう活用するかというところで、先生により大きく差が出る可能性があるように感じます。先生の指導の仕方によって、教育効果に差が出てしまう恐れがあるのではという話は出なかったでしょうか。

○山本学校教育課指導主事

めあてが3つのうちから1つをとるように示されているのと並列化しているのとでは並列化している方が教員の差が出やすく、子ども達の身につける力に差が出やすいといった話が出ておりました。

専門的な図工・工作を指導している教員が多いわけではないので、めあてが焦点化されている方が、子ども達にとっても経験の浅い授業者にとっても提示しやすいという話がありました。

○大下教育長

日文のコマ送りアプリ機能は面白そうですね。アニメーションの原型ですね。

○山本学校教育課指導主事

写真を撮ってそれを重ね合わせることによって、アニメーションの作成ができ、たいへん興味深いという話がありました。

○大下教育長

授業の中での活用はどうでしょうか。

○山本学校教育課指導主事

授業についてはすごく盛り上がるのではという話がありました。

○野口委員

図画工作のねらいとして大事なことは、自ら発想したり構想したり、そしてそれを実際に作っていくということだと思います。開隆堂は、3年生の「絵の具と水のハーモニー」や、4年生の「カラフル粘土でマイグッズ」など、素材を使って色々なことを発想して作っていく過程をすごく大事にしているような印象を持ちました。日文も同じように、2年生で「にぎにぎ粘土」や、3年生で「粘土の板を立ち上げて」など、そういった材料を使って、その活動の過程を大事にされています。ただ、作品そのものができることにちょっと重きが置かれているのかなという印象も受けました。今の指導要領の中での図画工作でいくと、子ども達が自ら発想したり構想したりというその過程が大事にされないといけないという点では、ちょっと両者の違いを感じたところです。

○山本学校教育課指導主事

委員おっしゃる通り、開隆堂は、子ども達にとって、やってみよう、ちょっとやってみようなど、主体的に「自ら取り組みたい」といったことに繋がるような題材の提示の仕方であるという報告を受けております。

○和田委員

開隆堂は、子ども達の笑顔が多くてカラフルでとても楽しそうに作られています。また、「あわせて学ぼう」で他の教科との繋がりも書いていますのでそれはいいなと思いましたが、そういったお話は出ましたか。

○山本学校教育課指導主事

「合わせて学ぼう」について、両者とも国語に繋がるよう工夫されておりますが、特に開隆堂は、友達の商品からどんなお話を想像したのか伝えようなどのポイントが含まれています。教員の指導の仕方にもよりますが、ポイントがあることによって差が生まれにくく、統一した指導ができるという話がありました。

○大下教育長

お話いただいた点の再確認をしますと、他教科との繋がりにおいて、開隆堂は特にこの教科とこういう点でということでポイントが示されているので、教員間の力量の差が出にくいと、そういう理解でいいですか。

○山本学校教育課指導主事

はい。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

今のやりとりをまとめていきますと、まずめあてと教科との繋がりに置いて、はっきりとポイントあるいは焦点が示されていて、教員個々の差が出にくい、それから、図画工作の基本である自ら発想し作っていくという面で、その過程を大事にしているという点、それから私が指摘したテクニカルな面ですけれども、各資料や写真の番号が付されているという点で授業は進めやすいだろうという諸点から、開隆堂に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

図画工作については開隆堂ということによろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、図画工作は開隆堂ということで採択したいと思います。

次は、家庭の審議に入ります。説明をお願いします。

○島原学校教育課指導主事

家庭は、東京書籍、開隆堂、以上2者でございます。家庭科は実践的で体系的な活動が多くあり、いかに初めに子ども達が安心して、そして安全に取り組めるかということが話題になりました。また、今日的な教育課題でもあります、消費者教育と環境との関わりということで、買い物についての話題が多かったです。あと、実践面の中で技術に大変重きを置くミシンについても、調査員からは色々な議論がされ、その辺を中心に推薦理由がまとめられています。

東書は、まず技術的な面ですが、巻末の「いつも確かめよう」の頁に、調理やミシンのことなどがまとめられていて、実習前に紙面に手を乗せて練習して安心して作業ができるようになっております。一方、開隆堂も、特設ページが巻末に設定され、実際の食材の大きさの目安を実物大で掲載し、児童が大きさの感覚を掴み安心して作業できるようになっています。扱いやすさに関しては、食品の栄養素について、開隆堂は巻末に折込みの頁があり、それを展開することで食品の栄養素を他の頁と比較することができるということが非常に良いという話がありました。次に、消費者教育についてですが、両者とも買い物トラブルなど、子ども達が今直面しそうであろう問題について記載がありました。特に東書ではオンラインゲームの課金について、枠で囲み、目立つように記載されており、開隆堂は、具体的な買い物トラブルの事例を2例挙げて、児童に予防や解決方法を考えるように工夫されておりました。事例の内容は、「買い物した時に服が小さかったり、洗濯をしたら色移りした時にどうしたらいいのか」、「自転車が壊れてしまったのでどうしたらいいのか」といった身近なトラブルについて書かれておりました。また、両者で大きく違ったところは、組織・配列です。東書は、5年生と6年生の学習内容を巻頭見開きの頁で、上下に対応して記載してありとても関係性がわかりやすい、と調査員からの意見でした。開隆堂も、ミシン縫いの配列のところ、5年生の始めにミシン縫いがあり、作ったものをそのままナップサックとかエプロン等をすぐに学校行事で使えるような配列の時期が考慮されているという意見でした。また、両者とも、イラスト、二次元コードでわかりやすい動画がたくさん充実しているので、子ども達が安心して意欲的に取り組めるようになっているというような話が出ました。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

最近食物アレルギーの子どもさんが増えていまして、学校給食でも最大の注意を払わなくて

はなりません。しかしながら、やはり子どもたち自身が、危険性や対策をしっかりと学んでいくことも大事だと思うのですが、その点について両者の教科書で特徴がありますか。

○島原学校教育課指導主事

東書は、頁にアレルギーの症状ということで、呼吸が苦しくなったりなど、アレルギーでどんな症状が出るかを取り上げています。開隆堂も、「食物アレルギーって何だろう」、「加工された食品にも注意」などの食物アレルギーの注意点を取り上げています。調理実習の際には特に、様々な多様性も含め、このアレルギーについても配慮しようということが記載されています。大きな違いでは、開隆堂では、二次元コードを読み取ることで、アレルギーを起こしやすい食材や、食品の裏の表示を確認することの大切さ、症状が出た時の対応策など、具体的な例が示されておりました。

○谷口委員

犯罪の低年齢化といえますか、児童達も犯罪あるいはトラブルに巻き込まれることは、日々報道されているところですので、そういったときにどういった行動を取るべきかということをお教えるというのは重要なことと考えます。開隆堂の、買い物トラブルで、非常に具体的に、解決策を記載してくれているのは、非常にいいと思います。東書の、オンラインゲームの課金問題、これも非常に現代的でよく報道されているトラブルではあります。二つのトラブルを両者が扱ってくれたらと思いつつ読みました。仮に、一方の教科書が採択された場合、もう一方のトラブルなども、現場の教育の中で先生が指導していただけたらいいものなのではないでしょうか。

○島原学校教育課指導主事

開隆堂では、インターネットについての課金について焦点化して書かれているわけではありませんが、消費者として困ったら悩まずに相談しようという形での記載があります。調査員の中では、オンラインゲームについての課金といった内容については、インターネットトラブルとして、生徒指導部とともに、日常的に連携しながら取り組むことが必要という意見が出ておりました。

○野口委員

家庭科の大きな目標が、日常的生活に必要な基礎的な事柄をしっかりと見つけて実践できるようになるということです。そのためには、子ども達が、例えば今まで経験したことのない調理であるとか、縫い物であるなどが自分の力でできるようになって欲しいなと思います。そのためには、授業の中で経験したことを、家庭でもできるようになったり、教科書を実際におうちの中でちょっと開いて、お味噌汁を作ってみようとか、何かを作ってみようという思いを持ってほしいと思います。「家で活用しやすい」という点では、どのような意見があったのでしょうか。

○島原学校教育課指導主事

各者とも、子ども達がしっかりイメージして、それを実践できるよう工夫されています。東書は、ほうれん草の茎の洗い方をわかりやすく映した写真が掲載されており、開隆堂は、横長見開きで全頁構成され、背景の色もしっかりしていることで、手順が見やすく、ポイントもわかりやすいという意見が、調査員の方からも出ておりました。生活の中のプログラミングに関して、ご飯を炊いたり、洗濯をしたり、掃除をしたりなど、段取りを行っていくことが必要になってきます。開隆堂の生活のプログラムは流れをしっかりと押さえ、わかりやすく表記されて

いるので、生活をより良くしようとする時に必要な力を身につけられるのではないかという話が出ました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

意見が様々出ましたけれども、基本的に様々な生活の安全安心を脅かすものに対する対応ということで、双方に記載があるのですけれども、開隆堂は解決へのヒントということで、起きた時にどうしたらいいかというのが書いてあるんですよね。私が気にした食物アレルギーについても、単にこんなアレルギーがありますよということではなくて、それが起きたときの対応をどうすればいいのかということも QR コードを通じてイラストで見られる、実生活に繋げていくということで、生活の中でいかにそういう家事労働、必要な作業をプログラミング、要するに計画的に進めていくかということに関しても記載があって、生活していく上での力がしっくりと身に付けられるように配慮されているということで、開隆堂に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

家庭については開隆堂ということでよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、家庭は開隆堂ということで採択したいと思います。

次は、保健の審議に入ります。説明をお願いします。

○植林人権教育課指導主事

保健は、東京書籍、大日本図書、大修館書店、文教社、光文書院、学研教育みらい、以上6者でございます。単元の流れ、頁構成に関しましては、各者3～4ステップで流れが見える形で1単元の構成がされておりました。東書では、単元の始まりがすべて右頁から始まり、1頁から6頁で構成され、課題を提示し、見開きで内容を調べ深め、最後のページである左頁を使って、まとめるという構成になっているというところでした。他では、奇数の頁になって右始まりや左始まりがあったり、学研に関しては、4頁で1単元として必ず左から始まるというような構成になっていました。次に、話し合いや他者との関わりと記入欄についてですが、調査員の中では伝え合うということが大切という観点から、話し合いの場の設定というところを中心に調査しておりました。東書では、「深める・伝える」というところで設定されており、各ステップで記入欄を広く多めに取られておりました。大日本も「考えよう」「話し合おう」というところを取り入れて、「活かそう」のところで書き込み欄を設けられておりました。大修館では「考えよう」や「まとめ」で自分の考えを記入したり、他者にアドバイスをするという内容もあり、記入欄も広めにとられておりました。文教は、「Mission1・2」のところで記入欄を設けておりました。光文は、「考えよう」「話し合おう」「活かそう」で、自分が頑張っていることを考えさせ、記入欄も多くあり工夫されていました。学研では、自分の生活を振り返り話し合うことを随所に設定しており、自分の思考・判断したことを他者に伝えられるようになっており、記入欄も多くとられているとの報告を受けております。デジタルコンテンツに関しましては、東書の数が豊富で、独自の思考ツールを活用でき、大修館では「ほけんクイズ」で学習の確認が楽しくできるように工夫がされている、という調査の報告がありました。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

説明の中で、偶数頁なので単元の始まりがもう決まっている、あるいは奇数頁なので右左に分かれているとありましたが、その差はどういう理由で何が問題なのでしょう。

○植林人権教育課指導主事

流れが決まっている方がわかりやすいのではないかと、見通しがつきやすいのではないかとというような調査員からの報告がありました。その中で、東書の最後のまとめが左頁で終わることで、1単元の内容を、最終見ずにまとめていくことができ、定着を図れているかの確認をしやすいのではないかと意見が出ておりました。

○大下教育長

もう1点、書き込み欄の有無、それから頻度について、各ステップに書き込み欄が設けられているものもあれば、それぞれの単元ごとに1ヶ所書き込み欄を設けているものもあります。保健において書き込み欄の意味やそれに差があることでどういう優位性が生まれるのでしょうか。

○植林人権教育課指導主事

調査員の中では、書き込み欄を設けることで自分自身をまず振り返ることが大切ということと、それをもとに考えを書く、そしてまとめることで、一つずつ自分の振り返りをした上でどのような状況だったのか、考えた上でどのような考えが出たのか、それを相手にどのように伝えたのか、どのように感じたのかを書き残せるというところが、学びが変わっていくのではないかと意見が出ておりました。

○大下教育長

あと1点、東書で、デジタルコンテンツについて独自の思考ツールを活用できるようになっていると報告がありますが、これについて詳しく説明していただけますか。

○植林人権教育課指導主事

思考ツールなのですが、自分の考えを分類、比較、そして関係付けることができ、その考えを整理し、まとめることが視覚的に理解することができます。また、自分で書き込みを作り、追加していくことができるので、一目見て自分の考えを表すことができ比べることができるツールになっています。

○大下教育長

それは他者にあるかどうかは別にして、東書が一番充実されているということでしょうか。

○植林人権教育課指導主事

思考ツールに関しましては、東書だけであったと報告を受けています。

○谷口委員

他教科との関連や二次元コードの掲載などについても、ものによって異なりがあるようですが、その辺についてはどうでしょうか。

○植林人権教育課指導主事

他教科との関連については、東書は章の始まりで、関係してくる全ての教科等示されています。調査員からは、まとまっていてわかりやすいという意見が出ておりました。二次元コードに関しましては、すべて使い切れるかどうかは難しいという話が出ていましたが、興味を持

つためのツールとしては活用できるという意見が出ておりました。

○谷口委員

各者、飲酒、喫煙、薬物乱用について取り上げておりますが、その内容において、授業をしやすいあるいは子ども達にインパクトがあるというような内容を扱っている、教材を使っているのはどの教科書であったのでしょうか。

○植林人権教育課指導主事

教科書の頁数調査で取り上げていますが、内容的には各者とも同じような内容で、大差はないとの調査報告を受けています。

○野口委員

3、4年生の保健で、初めて子ども達は自らの体の発達や発育について学ぶことになります。だからこそ、より丁寧にわかりやすく教える必要があると思います。基礎的な正しい知識を教えるのに、より丁寧に記載されているのは、どの教科書であったかという点と、5、6年生では、より社会との関わりが深まって自分を守るということも大切ですが、犯罪被害防止について、より丁寧に書かれていて先生方も指導しやすいのはどの教科書か、調査員さんからの報告があれば教えて下さい。

○植林人権教育課指導主事

調査員の中では、丁寧に各者取り扱われ、皆の成長の違いというものはあるものなのだといいところもしっかり押さえられていると言っておりました。東書は大きなイラストや記入欄も多く取り入れていると話をされておりました。また、5年生の犯罪防止に関しましては、各者、取り扱っておりますが、光文では、犯罪があったときにはどこに相談すればよいのかということから、相談機関などの紹介を掲載しているという報告を受けております。

○野口委員

もう1点、性の多様性について、子ども達自身が悩んだ時に相談できる窓口について記載がある教科書とない教科書がありますが、その点について絶対に記載が必要か、不必要かなど、ご意見がなかったのでしょうか。また、実際の指導上どのように扱うこととなるのでしょうか。

○植林学校教育課指導主事

3、4年生で、性の発達、身体の仕組みのところで触れられており、各者とも、自分らしさについて触れられており、調査員の中ではその中で指導ができるという調査報告がされてきました。

○野口委員

特に相談窓口等の記載はなくても、必要に応じて、授業の中で指導ができるということで捉えてよろしいでしょうか。

○植林人権教育課指導主事

相談に関しては、先生などの身近で話のしやすい人に相談をしていくということも、授業の中でも触れていると調査員も言っておりました。

○大下教育長

学力と家庭でのタブレットの利用時間との間には、相関関係があるというふうに言われていますけれども、生活習慣を整える上で、ネットを見たりチャットをしたりというようなことを適切に適度にわきまえながら使いましょうというふうに注意喚起することが、保健の分野で必

要だと思えます。その辺について各者の記述はどのようになっていますか。

○植林人権教育課指導主事

インターネットに関しては、健康との関係性と犯罪との関係性というところで触れられておりました。東書に関しては、QRコードを用いてデジタルコンテンツの中でも動画によって取り上げられていて、工夫されているという意見が出ていました。

○大下教育長

それは各者ともインターネットに関わる犯罪あるいは健康に関する記述があつて、特に東書はQRコードで動画について触れられているということでしょうか。

○植林人権教育課指導主事

はい。各者ともインターネット、タブレットの使い方、インターネットの使い方の記載はあつたと報告を受けております。

○谷口委員

今の件で感じたことは、学研はそこに対する記述が非常に弱かったかなと感じました。東書は、スマホというところはあまり出ていませんでしたが、パソコンに関しては出ていたと感じています。ただその2者を今挙げたのは、非常にまとまった状態で2頁あるいは4頁の見開きで構成され、その単元が見渡せ、理解しやすいというのがあるからですが、ただパソコンとしては今お話ししたように感じました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

それでは優位と思われる側面では1者だけというのはあまりなくて、各者、それぞれ何者かが持ち合わせているということなのですが、総合的に比較すると、例えば独自の思考ツールということで、分類比較関係付けが整理しやすいということは1者だけである、それから、VDTの扱いについて、生活の良好な習慣性を持つ上では重要ですよということを注意喚起する意味で、特に動画でも触れている、さらには、3年生のスタートの段階でイラストを入れて丁寧に説明されている、それから他教科との関係についても章の始まりでしっかり触れられているという点で、どれも唯一絶対ということではないのですけれども、総合的に判断をして、東京書籍に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

保健については東京書籍ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、保健は東京書籍ということで採択したいと思えます。

次は、外国語の審議に入ります。説明をお願いします。

○田坂人権教育課指導主事

外国語は、東京書籍、開隆堂、三省堂、教育出版、光村図書、啓林館、以上6者でございます。東書は、一つの单元の中で、聞く、読む、話す、が繰り返し取り入れられているので、児童が自信を持って伝え合うように工夫されているとのことでした。開隆堂は、「Let's Watch and Think」で言語材料に出会って、次に「Let's try!」で学習した語句を日常生活に関連付けて言語活動が行えるようになっているので、学びやすいとのことでした。三省堂では、頁の中に提示される分量が適切で、提示の仕方も段階を踏まれているので、児童が学んだ表現を何回も使えるような構成は学びやすいとのことでした。教育出版は、児童にとって興味関心の

ある題材が扱われていて、導入の映像は子ども達にとって魅力的であり、導入で引きつけられた状態から、コミュニケーションに繋がれているとのことでした。光村では、実生活で活用できるような表現が取り上げられていて、コミュニケーションの活動では、どのように活動するのかを挿絵や写真から見てわかるようになっているので学びやすいとのことでした。啓林館は、Activity の Hints に掲載されている QR コードで、自分が伝えたいフレーズや単語を見つけて聞いたり、自分も使ってお互いに伝え合ったりができるので、少し苦手に思っている児童でも学びやすいという意見がありました。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○植原教育長職務代理者

学習の継続性ということを考えていった場合、4技能5領域がバランスよく配置されているあるいは内容的にバランス良くなっているというのはどの教科書であるか、調査員の中ではどのような意見が出ていますか。

○田坂人権教育課指導主事

学習指導要領では、自分の力だけで文章を書くことまでの力は求められていないのですが、語順を意識して書ける力、見本を見ながら書ける力は求められています。そういう意味で、バランス良く教科書が作られているのは、東京書籍と三省堂ではという話が出ていました。

○植原教育長職務代理者

東京書籍と三省堂はその4技能5領域に関しては、バランスがいいという判断ですね。その上でその教科書の中で、英語と触れ合う大事な時期である3年で、調査員の意見として、子どもを指導していくのには、どちらが初めての出会いとして教育的効果が高まるといったような意見は出ていましたか。

○田坂人権教育課指導主事

実際に英語の授業の中で、子ども達の様子は、英語を見ながら英語を聞いたり、友達とやりとりする事に関して、大変意欲的に取り組める子ども達が多いです。しかし、実際その文章を書き写してみようとなると、急に意欲が下がり、少しハードルが高いと感じる児童が少なからずあるようです。書くことについて、各者ハードルを下げる工夫がたくさんされていますが、中でも、三省堂は書くことへのハードルがある程度配慮されているという話が出ていました。

○植原教育長職務代理者

つまり英語教育に関する地域の実情を考えたらこれが使いやすいということでしょうか。

○田坂人権教育課指導主事

調査員の意見では、領域すべてをバランスよく身につけるためには、この教科書がいいという話が出ていました。

○大下教育長

今の点で、5領域すべてを学ぶ上で三省堂がという話なのですが、特に書き写すことについて子ども達は困難を覚え、三省堂はそのハードルを下げている、具体的にどういうことでハードルが下がっているというふうにわかったのでしょうか。

○田坂人権教育課指導主事

まずは分量の点で、書き写す時に子ども自身が「書いてみよう」と思える分量になっていま

す。また、掲載されている絵や写真の横や下に単語が記載されていることで、文字を見ながら意味を理解し、文字のイメージが頭にインプットされます。インプットされた上で書き写す作業に入れる方が子ども達にとって英語の習得に繋がります。これらを踏まえると、情報量が増えがちになってしまうのですが、情報量が適切で、わかりやすい紙面になっているのは三省堂ではないかという意見もありました。

○和田委員

今は生徒側から学びやすいという話をしていただいたのですが、先生からして教えやすいという点についてはどういった意見が出ていたのでしょうか。

○田坂人権教育課指導主事

各者、段階的に学習が進められているのですが、何度も同じ表現を繰り返し使うように設定されているのが、東書、三省堂、開隆堂になります。毎回小さな発表があり、それを踏まえて、ある程度まとまった分量を大きな発表につなげていくという活動にもなっているので、子どもたちは定着することを意識しないうちに、反復練習ができます。ステップが踏まれているので、教える側としても教えやすいのではという話が出ていました。

○谷口委員

4技能5領域にまだ少しこだわっているのですが、適切という表現が出ていましたので、適切ということは、他のところは多いか少なすぎるかどっちかだろうと思うのですが、今の流れでいくと他のところが多すぎるという受けとめ方でいいのでしょうか。少なすぎて物足りないというところもあるのでしょうか。

○田坂人権教育課指導主事

子ども達がアルファベットの大文字や小文字を書ける力、また、語順を意識して書ける力を身につけるのには、書く練習が少し不十分に感じる教科書はあります。

○大下教育長

中学英語との接続という意味では各者は対応されているのですか。

○田坂人権教育課指導主事

各者、キャンドゥリストなどを設け、中学校での学習の接続を意識した内容となっています。

○野口委員

教科英語になって子ども達には4技能5領域をバランスよく学ぶということが求められていると思うのですが、やはり岸和田の子どもにとってハードルが高くなってしまふのは、書くというところですか。

○田坂人権教育課指導主事

書くことは好きではないが、コミュニケーションの活動については、楽しく前向きに取り組んでいる子どもは多いようです。

○野口委員

それがいわゆる実態なのですね。その実態から考えて、やはり岸和田市としては教科書を選んでいけないといけないということでは、どれもバランスよくとおっしゃっていましたが、書くというところで、子ども達に合うのを選択していくということが必要ではないかということは、調査員さん達のお考えということによろしいですかね。

○田坂人権教育課指導主事

はい、そうです。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

野口委員が最初におっしゃいましたように、やはり小学校の時に初めて英語に出会うので子ども達もすんなり英語に親しめる、また教員もそれをしっかりと親ませられる、教えやすいという観点が大事であると思います。そういう意味で、書く能力を満遍なく引き出す、先程議論がありましたように、現状においては岸和田の子ども達というのは書くことにおいてやや課題があるということから、イメージ図と文字をバランスよく示しているという点、さらには、繰り返しそれを学ばせることで定着させやすいという点など、総合的に勘案して、三省堂に優位性があるのではないかという印象を持ちました。個人的な意見だと思いますが、受験英語に対する被害者意識が非常に強い世代ですので、書くことも大事ですし読み取ることも大事なのですけれど、やっぱり聞き取ってしゃべる能力も大事ですので、まさにバランスよく進めていただきたいと思います。

外国語については三省堂ということでもよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、外国語は三省堂ということで採択したいと思います。

次は、道徳の審議に入ります。説明をお願いします。

○佐伯学校教育課指導主事

道徳は、東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、以上6者でございます。東書については、巻末に「心のメーター」という付録がついており、児童が現在の気持ちや考えを伝え合ったり、意見を交換する中で、その変化を表現してより深く考える手だてとして使える様になっています。教出では「モラルスキルトレーニング」「アサーション」「アンガーマネジメント」などのコラムや巻末資料、問題解決的・体験的な学習を取り入れているところが特徴的でした。光村では、問題解決的・体験的な学習ができる教材が充実しており、2年間を通してどのように学習していくのか、どのように考え、どのように議論していけばいいのかを、子どもや教師に対して、丁寧に手だてを記載しているところが特徴的でした。日文ですが、唯一別冊の「道徳ノート」が付属されており、学習を記録して振り返り、保護者とも連携がとれるという良さがあります。中身については発問が記載されていないのですが、指導の幅が広がるということが期待されるであろうと聞いております。光文では、児童の学校生活に即した保護者の教材が扱われていたり、「ひろげよう」では、実践意欲につながる発問の設定が特徴的です。学研では、問題解決的な学習として「心のパスポート」で体験的な学習を取り入れるような工夫がされていたということを知っております。以上です。

○大下教育長

委員の方からご質問やご意見ございませんでしょうか。

○谷口委員

説明にありました、日文の唯一「道徳ノート」がついているという点について、どういう意見が出ていましたか。

○佐伯学校教育課指導主事

「道徳ノート」については、子ども達の学びの足跡になります。最終、どのように考えているのかをまとめることができるので、指導者にとっては評価をするうえで役に立ち、子ども達にとっても振り返ることができます。また、例えば、懇談会で廊下に並べて、保護者に自分の子どもがどんなことを書いているのか見ていただけたりと、様々な活用ができるという話がありました。一方で、中心発問がノートには記されておらず、子どもたち自ら書き写さなければならぬので、時間がとられ、子どもたちにとってハードルが高くなってしまふなど、課題もあります。結果的に、先生がワークシートを作り、ノートに貼り付けることとなるのではという話は出ておりました。

○大下教育長

一般に世の中では家庭の教育力が低下している、道徳についても然りということで、家庭でも子どもが保護者と話し合ったり考えたりする機会が大事だと思うのですが、そういうことを仕向けているかどうかという点について、各者特徴がございますでしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

教科書の裏表紙や巻末には、保護者へのメッセージが書かれている教科書会社があります。その中で、特に、「子ども達と語り合ってください」や「活用してください」といった内容のメッセージが掲載されているのは、東書、光村、日文、光文です。東書は、各学年の情報モラルを扱うコラムの中で、保護者の皆様へというメッセージが書かれております。また、各学年、家族愛の内容項目についてもあり、子ども達が、「家族のために自分ができることはどんなことがあるか」、「きずなを深めるために大切なことはどんなことか」など、子ども達に問い掛ける発問がありました。教出も各学年に家族愛の内容項目を取り上げており、子ども達が話し合っただけで考えたりするような発問があります。光村は、「家の人と一緒に考えて欲しいこと」というマークがあり、「家族のためにできることはどんなことか」という子どもへの問いかけが設定されていたり、3年生については、「家族に思いを伝えよう」というマークが掲載されておりました。日文については、道徳ノートに、1枚物の各学期のまとめのシートが用意されており、家の人からコメントを書いてもらうコメント欄がありました。また、教科書にも、1年生と4年生で、家の人から書いてもらうコメント欄が設けられておりました。光文も、家族愛に関する内容項目があり、最後に設けられている「ひろげよう」での発問で、子ども達に「実際に今から伝えてみよう」「家族の一員として実行してみよう」という言葉がかけられていて、他者との違いがありました。学研ですが、家族に関する内容については、目次で家のマークによって紹介されています。低学年には5～6個、高学年に3個と少しばらつきはありますが、6年生の防災の内容では、「考えたことを家族と話し合ひましょう」という投げかけをすることで、家族のことを子ども達に意識させる工夫がされておりました。

○和田委員

道徳では色々なキャラクターが各者出てきていて、「ちびまる子ちゃん」や、「かんたくん」、光村にはまたヨシタケさんの絵や、懐かしの「アンパンマン」などが出てくるのですが、光村の3年生の「決まりのない国のストーリー」で、子ども達に対して、「なぜルールを守らないといけないのか」、「決まりがないといけないのか」などが大変分かりやすく書かれておりました。4年生の56頁からの「命をつなぐ岬」のウミガメの登場から、次の題材の「このままにして

いたら」のごみや資源という流れが、繋がりとして学べるのがすごくいいなと感じました。子どもが理解しやすく、日常的なこととかけ離れずに学べるのが、わかりやすいと思いますが、そのあたりはどんな意見が出ていましたでしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

各者、身近な題材を読み物の中で扱っています。委員おっしゃるように、ヨシタケシンスケさんの絵、馴染みやすく、親しみやすいキャラクターがよく扱われていると調査員の話合いの中で出ておりました。

○植原教育長職務代理者

特別の教科道徳の中で、新しい学習指導要領で、自分自身に関することや、人との関わり、集団社会といったその4項目は絶対に押さえていかねばならなくて、調査員の中で話題に出たかと思うのですが、岸和田の子どもの現状を考えた場合、どの教科書が指導しやすいとかは出なかったでしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

調査員の中で、特にどの項目に力を入れたいかと話は出ておりませんでした。ページ数調査では、各社で大きく偏りはありませんでした。

○大下教育長

道徳教科の場合は、特に知識を与えたり、考え方を押し付けたりするというのは絶対してはいけないことで、やはりそれぞれが考えてもらったり、友達と議論をするということが大事だと思うのですが、そういうところに関して、各者はどういう配慮をされていますでしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

読み物教材の読み取りで終わってしまったり、日常でも常に言われているため、わかりきった道徳的価値で終わってしまい、道徳の本質を深めることが難しい、その点を各者は巻頭で学び方について触れております。例えば話し合いの仕方、学び方、考え方は、思考ツールなどを使うよう記載されています。光村図書は様々な教材の中で考え方のヒント、話し合いの仕方など、細かく掲載されているので、先生も指導しながら深めていくことができ、子ども達に伝えながら、考えさせたり議論させたりしやすいのではないかと話が出ておりました。

○大下教育長

今、おっしゃっていただいたのは、資料の記載で言いますと、学習の見通しが立てやすく考え話し合うためのコツが掲載されている、これによって子ども達も学びの目的、それから教師にも手だてが理解しやすいという部分でしょうか。

○佐伯学校教育課指導主事

はい、そうです。

○野口委員

どの者もいじめ教材について取り上げていると思いますが、はっきりとこれはいじめに関することと示している教科書、そうではない教科書もあって、子ども達に「いじめについて学びましょう」とはっきり示した方がいいのか、それとも学ぶ中でいじめについて学んでいくほうがいいのか、私自身も疑問に思ったりしました。岸和田市もいじめ認知件数がぐっと上がっていると今日報告を聞いたのですが、解消率もしっかり高くなっているということで、市としてはしっかりいじめには取り組んでいるかなとは思っています。子ども達に心の根っこのところで、

いじめについてしっかり考えてもらうためには、それぞれいい教材を作っておられるとは思いますが、もし特徴的なことがありましたら教えてください。

○佐伯学校教育課指導主事

各者、いじめに関しては、各学年でのユニット教材でしっかりと取り扱っておりました。页数調査では、日文、学研が比較的多いのですが、直接的ないじめの教材だけではなく、いじめを許さない心を育てるという観点にポイントを大きく置いており、页数が多くなっています。各者、実際に子ども達に身近に起こったことを想起させながら、実際そういう場面に生活の中で出会ったときにしっかり行動できるよう作成されていると調査員は言っておりました。

○大下教育長

他にご意見はありませんか。

私が一番心配をしていましたが、学校だけで道徳を教えてもどうにもならない、家庭との連携が大事だよと各者本当に熱心に取り上げていただいて、安心をいたしました。そういう意味ではもう差がなかったかと理解をしています。ただ算数みたいに法則があって、答えも自ずから導かれるものではなくて、道徳の教え方って非常に難しいものであると思います。先程申し上げたように、知識を押し付けたり考え方を押しつけないということになしに、お互いに話をさせて考えさせる、その過程、そのプロセスが非常に大事なので、そういう点で、巻頭にそういう考えるヒントや話し合うためのコツというのを記載していただいて、学ぶ児童だけではなく、教員も手だてが立てやすいという点で、私の判断としては、光村図書に優位性があるのではないかという印象を持ちました。

道徳については光村図書ということでよろしいでしょうか。

(教育委員 異議なし)

それでは、道徳は光村図書ということで採択したいと思います。

以上で全ての審議が終わりましたがよろしいでしょうか。

国語は東京書籍、書写も東京書籍、社会も東京書籍、地図は帝国書院、算数は東京書籍、理科は教育出版、生活も教育出版、音楽も教育出版、図画工作は開隆堂、家庭も開隆堂、保健は東京書籍、外国語は三省堂、道徳は光村図書、と審議していただいた結果、このように岸和田市における令和6年度の使用教科用図書を採択したいと思います。よろしいですか。

(教育委員 異議なし)

それでは、そのようにさせていただきます。ご審議ありがとうございました。

以上で、公開の案件は終了しました。

次に、非公開の案件の審議に入ります。関係者以外は退席願います。

議案第29号 岸和田市立小中学校における令和6年度使用教科用図書(附則9条に関わる図書)の採択について

(非公開議案1件について審議され、承認された。)

○大下教育長

以上で全ての案件が終了しましたが、他に何かございませんか。

ないようですので、これもちまして本日の定例教育委員会会議を閉会します。

閉会 午後7時10分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

教育長

署名委員